

雜留

八

庫文閣内			
八二函	三三六六	和	
一	九	書	
架	冊	類	

内閣文庫			
番號	和	32666	
冊數	9 ( 2 )		
函號	181	46	

共九

18



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

一 行 事 相 儀

一 相國寺松原齋長老多引、海相寺公迄、

一 相中傷中、相祐念日、即靈屋、無中、自并

一 同新、中、燈籠、依、向、

一 五山、腹、字、跡、芳、相、身、公、奉、書、

一 相殿中、日、光、相、彼、殿、出、修、後、無、出、身、系、進、達、

一 相中、傷、不、紅、第、山、見、出、一、年、一、何、

一 多代、傳、月、大、月、月、相、其、公、書、中、

一 意、留、日、皇、太、神、宣、由、備、一、書、中、

一 夜、密、院、手、替、一、書、并、相、傷、一、何、

一 相、臺、相、即、允、備、出、仍、榜、之、無、一、年、院、相、身、公、奉、

一 延、寶、一、後、由、丸、出、物、物、一、月、只、收、書、校、

一 身、深、一、變、為、奉、在、殿、評、在、所、燒、失、之、象、且、伏、

一 書、板、

一 中、興、制、取、御、高、一、合、

一 察、入、由、用、入、由、一、方、有、也、御、因、一、日、同、家、合、有、也、

一 由、有、由、由、一、御、一、化、伊、殿、同、合、

一 一、危、崎、又、有、是、出、被、露、一、書、校、

一 一、御、此、身、一、口、魚、而、持、一、神、至、中、通、一、出、少、一、

一 一、里、村、昌、逸、由、備、書、

一 一、山、王、神、主、代、一、前、何、

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十



- 廿一 一 尚後遺後在替山事
- 廿二 一 日光社家本德寺傳之遺後立
- 廿三 一 日光山一場家傳五條不尚書
- 廿四 一 盤中 尚書(用)
- 廿五 一 口為數所手抄出南宮在元
- 廿六 一 山王宮元延引
- 廿七 一 新親身言家本山年教田舍年教市作狀之紙
- 廿八 一 尚書院傳德院傳由德
- 廿九 一 尚書院
- 卅一 一 鳳閣寺傳傳
- 卅二 一 金地院配下寺院由傳之紙衣才尚書
- 卅三 一 常不德寺住方通寺通照心院由儲書
- 卅四 一 永平寺正法眼藏國教
- 卅五 一 德波國造驛路
- 卅六 一 盜物傳
- 卅七 一 尚書院
- 卅八 一 寺後寺
- 卅九 一 酒井雅雲田沼

尚書院

- 四十一 一 金保寺西持田畑高
- 四十二 一 田高上中下坪故書
- 四十三 一 田村松原為養子紙
- 四十四 一 尚書院
- 四十五 一 尚書院
- 四十六 一 尚書院
- 四十七 一 尚書院
- 四十八 一 尚書院
- 四十九 一 尚書院
- 五十 一 尚書院
- 五十一 一 尚書院
- 五十二 一 尚書院
- 五十三 一 尚書院
- 五十四 一 尚書院
- 五十五 一 尚書院
- 五十六 一 尚書院
- 五十七 一 尚書院
- 五十八 一 尚書院

- 六十九 以勅長命寺由借書
- 七十 檀林坊住持由借
- 七十一 坊上青山内陽在院午云
- 七十二 聖德太子惠施
- 七十三 復持院坐形之傳書
- 七十四 香取大宮司事陽二行中殿
- 七十五 伏見新形之傳書
- 七十六 奉引諸役人振看之傳書
- 七十七 京大仙殿由借
- 七十八 秋初能富家大宮司大内兵部由借書
- 七十九 一向宗持寺号
- 八十 麻布白金寺持院由借

寛政七乙卯年五月十九日 紀南州年春

役人宛

惠恩院  
場如院

此子安致持見山物云此百子出中  
 造通身幣中化内行了相  
 如何如云云云云  
 知云云云云  
 高了行殿云云  
 新云云云  
 化盤有云云  
 禮盤云云  
 具云云  
 教云云

五月十九日





寶號政七乙卯年七月九日 易中初至門  
同今之日也別由初至書日乃出四子  
日始出日人之古也之古之道

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

在字為十乙卯年 易中

博信院 傷中 傷中 傷中

傷中 傷中 傷中

傷中 傷中 傷中

易中傷中

七月

東山院 博信院

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

易中傷中

自奉一得去意一則片一通出

一覽近四吉年

有德院知出中傷中七  
系傷村  
山面相見  
有  
傷  
面相知

七  
九日

雲山院

寛政七乙卯年七月十日

同合  
持出

寛政四年七月十日

若君知出

公方知出  
中  
有  
分

一奉備十一年七月

公方知出  
中  
諸士方科  
知出



右依德身... 以上

七月

坊吉 役者

光

公方御所... 中

御所... 中

御所... 中

一 明和元年申年十一月廿七日

一 堀内... 中

公方御所... 中

御所... 中

信儀院... 中

御所... 中

御所... 中

御所... 中

一 明和八年六月五日

田安右衛門... 中

公方御所... 中

信儀院... 中

御所... 中

御所... 中

御所... 中

御所... 中

右依... 中

七月

坊吉 役者

寛政四子年七月

公方御所... 中

御所... 中

一 宗法寺有...

一 宗法寺有...

享保十三年七月

公方様宗法寺

宗法寺有...

一 宗法寺有...

七月

东御院  
津梁院

宗中法中

宗代の御宗法寺

宗代の御宗法寺...

宗法寺有...

右の通り...

七月

雲山院

一 宗法寺有...

公方様宗法寺

宗法寺有...

宗法寺有...

宗法寺有...

一 宗法寺有...

公方様宗法寺

所至處... 寺... 家... 諸... 右... 通... 以上

七月十日

雲山院

寛政七乙卯年七月廿七日金地院... 右... 通

但五山... 諸... 相... 有... 是... 亦... 認... 子... 之... 右... 筆... 跡... 也... 中... 字...

相國寺

梅... 莊... 願... 寺... 長... 光

七十七日

建仁寺

高... 峰... 末... 庵... 長... 光

六十一日

天龍寺

法... 堂... 令... 傳... 長... 光

六十四日

象... 田... 周... 畔... 長... 光

六十八日

建仁寺

環中玄諦西堂

辛ノ三星

東福寺

熙陽龍育長光

乙ノ八星

相國寺

松源中堂長光

乙ノ六星

東福寺

天瑞守選西堂

甲ノ二星

寛政七己丑年七月廿七日伊豆守西堂  
法書身在通

日光

淨住殿其可古修後中堂空此命

淨縁中

淨住殿之方

淨靈成其可ハ 淨忌明之取樹了可

中戒之浪

淨代之棟古中法之并之回測忘之

法証人相何之然之先古之礼之候也

浄法中之之可ハ之無法推有之准一

去ノ丑年二月

浄忌之教之月日光古之礼之有之

日光

清宮通言古修撰字三列仙波

所史古修撰亦有以修撰日克

所史向之修撰古田修撰通古修撰名合

以方之有之或又ハ日克古修撰有之六

古修撰之修撰不若方之有之或

古之修撰之修撰無名修撰通古修撰

古之修撰之修撰無名修撰通古修撰

右之修撰通言古修撰字三列仙波  
十九日伊豆修撰古直也

上野修撰通言古修撰字三列仙波  
松平古直也

一修撰通言古修撰字三列仙波  
上野修撰通言古修撰字三列仙波

通言古修撰字三列仙波  
上野修撰通言古修撰字三列仙波

七月十九日

上野修撰通言古修撰字三列仙波  
松平古直也

日光

所修撰通言古修撰字三列仙波

所修撰通言古修撰字三列仙波

所修撰通言古修撰字三列仙波

所修撰通言古修撰字三列仙波

所修撰通言古修撰字三列仙波

所修撰通言古修撰字三列仙波

所後中... 有... 准...

去... 丑年... 四月

所忘... 有... 子... 日...

所宮... 三州... 仙...

所宮... 有... 光...

所宮... 向... 通...

所... 又... 光...

所... 有... 子...

所... 有...

所... 有...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

所... 有... 概...

河原殿より右に立修護と云ふ止  
河原明法は是古昔修護法を修  
治すも不苦惱の門を以て可修  
之通に意を執修すべしと云ふ修護  
法と云ふ

七月  
惠恩院  
櫻如院

天明六年十月

日記書校

十月六日

一自分儀忘 河原聖七の月番お  
篇

同十一日

一河原山尼也りの依自分月番の修護  
法中 其の忘れ難く月番

河原中法中も尼也り有る先月番修  
護法多し見廻りし其の初に諸子合  
ふ其の古し通

一河原山尼也りの依先月番修護  
法中 其の由りし其の修護法  
修護古し通

河原中法も其の修護法あり其の修護法

と通、身見、了、之、悔、之、至、悔、中、事、  
右、法、有、之、所、以、一、座、頭、の、人、  
と、相、頼、之、

同廿九日

一 那、高、山、見、也、り、之、彼、大、形、法、在、右、頼、今、  
悔、中、之、右、法、有、之、明、也、見、也、り、之、此、大、  
由、

同晦日

一 大、形、法、那、高、山、見、也、り、此、大、別、集、也、  
之、中、也、  
一 安、永、八、亥、年、手、是、書、之、因、  
一 公、方、林、法、中、陰、中、ハ、那、高、山、  
清、文、之、勿、論、  
又、山、清、靈、屋、也、見、也、り、之、所、及、子、之、由、更、

濃、弓、之、字、也、

口、年、二、月、晦、日、記、之、因、

一 今、晚、宿、中、也、之、以、其、代、之、感、也、

清、中、陰、中、何、在、月、多、言、那、高、山、也、  
り、之、彼、

清、靈、屋、中、見、也、り、之、或、之、後、之、事、也、  
中、本、以、是、ハ、那、高、山、見、也、り、之、  
以、後、之、事、也、  
清、中、陰、明、也、見、也、り、之、一、人、也、  
在、也、

清、後、中、那、高、山、清、橋、之、因、  
清、靈、屋、 清、后、代、有、之、以、右、不、答、也、

延、享、五、辰、年、一、上、也、有、之、以、後、也、  
清、中、陰、中、也、見、也、り、見、令、之、方、也、  
清、中、陰、中、也、見、也、り、見、令、之、方、也、

清、中、陰、中、也、見、也、り、見、令、之、方、也、



三月十九日 京都府大田郡南河内町西九郎左衛門尉  
氏家 奉  
延享五年三月十九日  
同日合下格返上可也々々  
延享五年三月十九日  
同日合下格返上可也々々  
延享五年三月十九日  
同日合下格返上可也々々

延享五年三月十九日  
同日合下格返上可也々々

延享五年三月十九日  
同日合下格返上可也々々

延享五年三月十九日  
同日合下格返上可也々々

延享五年三月十九日  
同日合下格返上可也々々

三月

高書

元文四年三月廿日

戸田絳希平

一二宅防別立右見書并寫

別紙中上の西九郎名代之者涉禮  
儀以下遠國面書名代ハ名及申  
都而書人ハ書作渡口越右達不  
下西九郎西礼儀以下後書由座  
有間交事ニ幸好ハ為由禮由老中方  
右系美殿能登書殿也相廻リ以候  
由座以下名代一而一力石上學下  
兵部下間補後書好ハ以上

年九月

六月廿

奉三月十九日 相本左近将監殿由并紙一紙成

由渡口上候面書由并紙一紙成

延享二七年八月廿九日

高番 松平純伊守

一石河上列口上之部一少少送

来月朔日勅出仕之部名代等出仕  
出仕之因之部一者不之部出仕  
左以之月次出仕者一少合嫡子  
又去四番元

佛月見以上ノ中書清元等ノ石若  
以間名代等七仕方少少

右之部為議

佛改勢

將軍 宣下之部佛就中依一勅出仕也

寛政七乙卯年

覺

一関東一宮神月意富日皇太神官

佛由緒一佛後之天正年中

東照宮棟佛入國一佛初之部一官之部為  
向佛成之部佛神官富中務補伴而  
伊勢之居宅之部成則太神官  
佛系之部佛初領之部

笔神官父子之部 石出控

佛系之部一佛領物之部 佛身佛密事一

佛初領之部 佛全ノ天下佛一統

佛心之部佛掌之部有少少

佛身之部 佛口授一佛鎮座佛之部

佛身之部則皇之部云々 佛氏安端一

多々夫々上と下を護す為也

御意形、仍白皇太神云々、法例也、

所同殿、云為成也

一、嘉苗日皇、御神号、往古と比、字と

書は如

東照宮様、号為月比、字と日、改り作也

作付夫々以来

公候、所後、奉款上、法後、第右文字、改

奉款来也

一、性、昔日本武尊、伊豫志、神云、法形、御意

ヲ、當而、海、表、法、向、法、形、有

リ、之、速、感、應、有、海、表、光、輝、

号、御神、御神、鏡、法、形、云、為、後、天

公、當、浦、と、神、止、賀、浦、と、稱、云、来、走、り、比

ハ、六月、十一日、云、四、月、廿、日、毎、年、六、月

十日、上、各、祥、日、と

東照宮、御在世之辭、法、祭、日、と、云、為、定、法

定、或、法、神、事、と、云、成、法、形、也、未、也

秋、傳、也、皇、太、神、宮、口、座、分、御、若、御、信

と、云、り、上、り、也

東照宮様、御神、位、二、座、分、奉、款、由、其、日

ハ、法、神、事、と、法、神、位、七、十、五、位、也、(一、年、)

下、天、下、奉、平、法、武、運、長、久、所、子、孫、法、繁

榮、と、云、り、未、初、来、也、云、法、座、也

東照宮様、御、別、宮、奉、初、法、也、云、南、光、坊

大、僧、正、天、海、法、也、云、云

御、号、新、法、誤、英、日、光、山、法、深、意、(一、位、)

法、傳、授、云、成、下、也、云、四、月、廿、日、招、揚

御、殿、と、年、日、奉、稱、也、云

東照宮様 右、值、院、様 大、猷、院、様、御、為

成佛止者、佛殿は其建直以、仍右  
佛殿進の先祖は、其外不持仕所也

一 東照宮様清立世中々、其外不持仕所也

常盤神様と申稱は、其外不持仕所也

大猷院様清成、其外不持仕所也

常盤神様は、其外不持仕所也

也と申は、其外不持仕所也

一 東照宮三所、其外不持仕所也

佛中殿

東照宮 佛中殿 日本武尊 佛右殿

台蓮院様佛詠歌と別、佛号辨事宗

三所、其外不持仕所也

佛神額、佛号像佛鎮座社為之故

今、其外不持仕所也

此身、其外不持仕所也

一 有蓮院様号高也、其外不持仕所也

高氏系宮、其外不持仕所也

上意、其外不持仕所也

法奉納、其外不持仕所也

一 太神宮、其外不持仕所也

佛宮と稱は、其外不持仕所也

松平伊豆守、其外不持仕所也

上は、其外不持仕所也

涉尋 舟也先親中上水濟中以上又中社

内中場不出修儀不兼先年生於留身

新仕以入金言其在 乃中上以

意篇日皇太神云所云

所正殿

所矢束

百信武間  
右所也遷移寺間

神拂山所宮

豊受多神之本殿也殿

八幡宮

春日大明神

式内茂侶神社

所神系殿

神粵名

神樂一社

廬屋

直會殿

所保殿

裝束所

務社二社末社只拾一社

所支高(非庫)

舟橋九日市所殿地所鎮座

所正殿 所洋殿 初事殿 神樂

三社前左右廻橋五拾式間

所門五ヶ所

所矢束五百間余

五日市田中古所殿

夫末五拾名案之修  
所修儀用之身生位之位也

井戸三ヶ所

三御所棟所成、節所兼、水

井戸三ヶ所

古所殿廻、所門五ヶ所

御膳意或指七格沖梳所籠子

御幕 深五拾張  
白五拾張

御紋附御幕六張

上遷三下遷三御用具取

明和三年戊午十一月廿三日より御幕六張迄

御初身御用札子五百枚一枚御金

分取

戌年 金貳百兩

亥年 金千貳百兩

子年 金千貳百兩

丑年 金六百兩

寅年 金六百兩

卯年 金六百兩減少仕り月迄より取金

之刻より取金九子枚仕り一枚より取金

中下死芽場所控葉昨富身取仕

辰年 金貳百拾兩

巳年 金貳百拾兩

午年 金貳百拾兩

未年 金百八拾兩

申年 金百拾兩

酉年 金百拾兩

戌年 金百拾兩

右申年迄より取金年限五御用具取

三年又以前格々年々取金より取金

年限之内三年々年々取金

御月より格所天祥社月々身取仕

取札取金子枚仕り一枚より取金

取右三年より取金五百拾兩

右之取金取金取金取金取金

國庫一云  
取金取金

寛政七年四月

旨 伊藤

伊奉所

以上之是

一 天正年中

東照宮棟木全造

成以帝神左衛門督痛疾将伊藤

永古出

上意涉低

祈禱用

取以御

東照宮棟木

先坊去海傍

東照宮棟木

伊宮事 伊勸請

之筋

伊尊

祝詞

伊子孫

怠惰

一 伊成

東照宮棟

成以

伊城

在例

東照宮棟

大猷院様

三所所攝在之御引續之為也 御成  
東照宮棟御立世之通御内密之由祈禱  
所用不也 作付雖有仕合幸好之日  
御代御繁昌之為 有以也  
御成之御法位之元中上徳之御信教也  
成以白神官宅手授之為 思右以海  
老河之隔田中より不也  
古御殿引移之由と云  
上意御金子取之古御殿其居宅  
其外境内に勧請致意山王社稻荷社荒  
神社雷神社不殘引移中其御祈禱  
御金箱も今不持在立仍以右引移  
中此地也  
新御殿御遷之為也

成以別 新御殿番より右井太吾備  
後色七云備也 御舟右為人お初在立  
一貞享二年右新御殿御用也云御座也  
此代官他田新系及御段之上御徳文也  
以 御殿其地西に御引移 御下置以右  
御座之間御遷之由其度神林山に  
奉御御遷也  
東照宮棟御宮在御殿御引移  
上天下御安泰之御祈禱御事執り  
仕法也

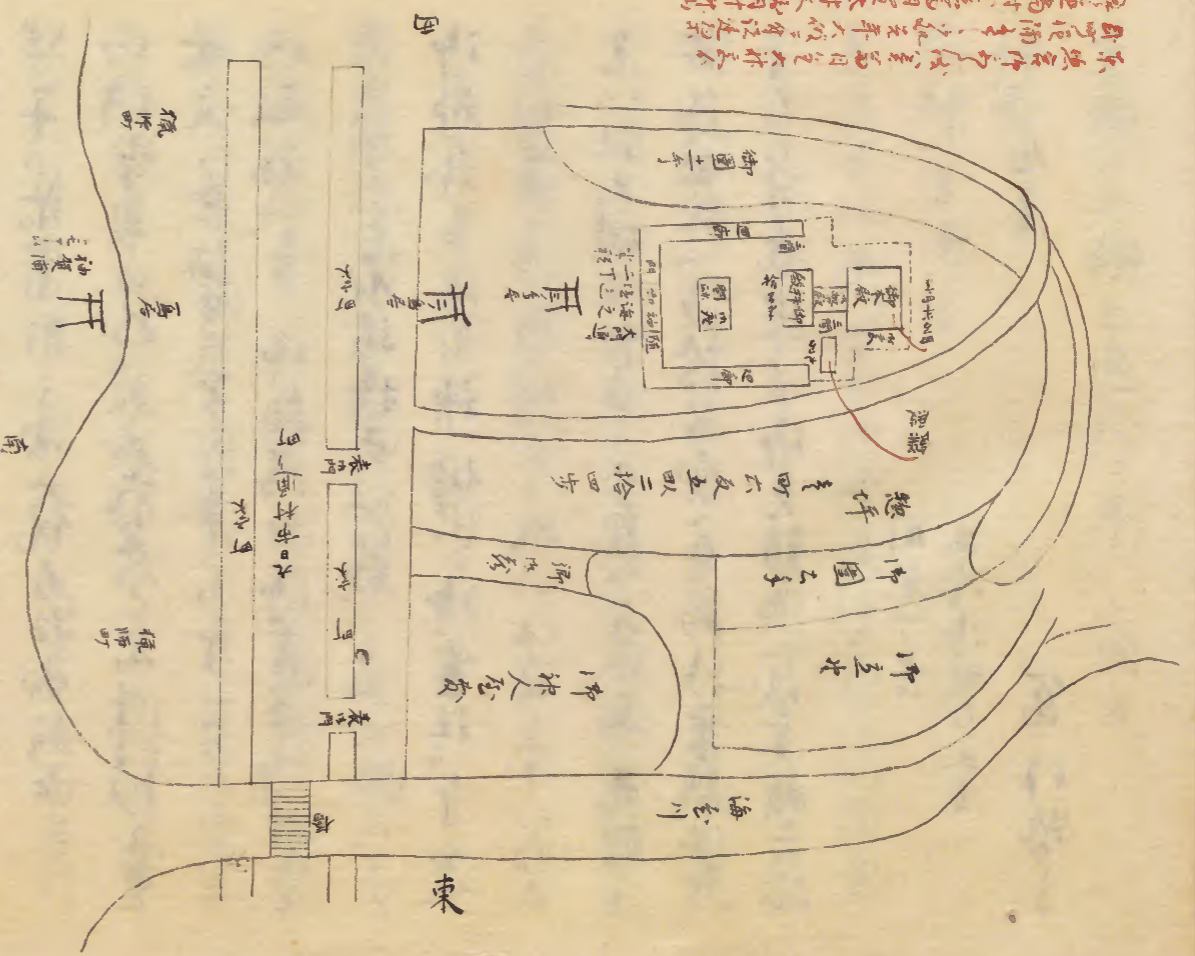
一 太神宮御宮

東照宮棟御宮其徳末社海邊に舟風  
破仕御修復不也和以御度  
自力依之明和三年松平伊賀守御米  
引繪出西に御祈禱御事執り

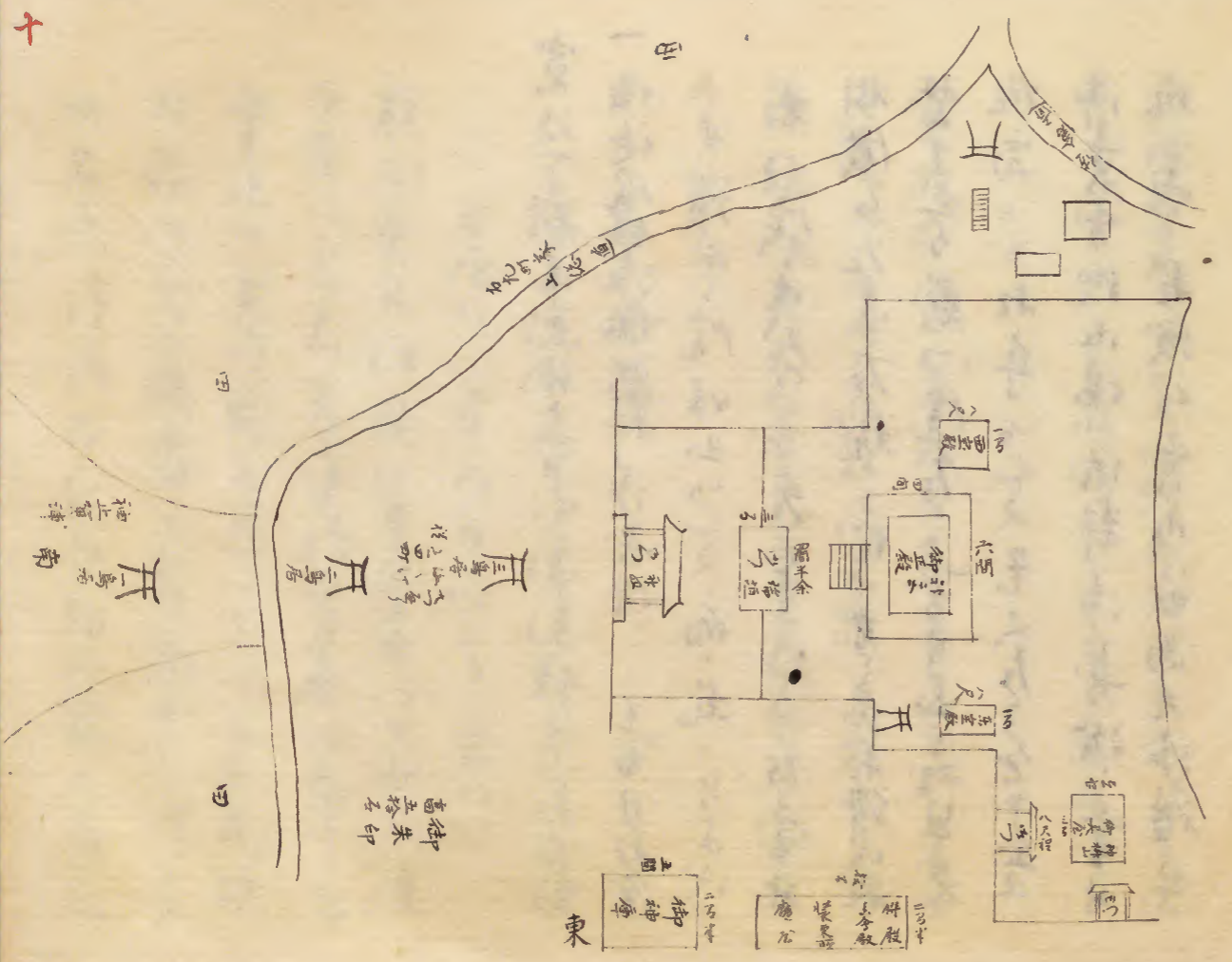




東城在作中... 東城在作中... 東城在作中...  
東城在作中... 東城在作中... 東城在作中...  
東城在作中... 東城在作中... 東城在作中...



甲



乙

寛政七乙卯年十月十二日

一後徳院殿清佛供料清書  
二甘凌中院殿清書  
三慈門院殿清書  
四相渡寺殿清書  
五聖十之寺殿清書  
六瑞高寺殿清書  
七清書  
八瑞高寺殿清書

之候お尋ひ申上り候段又も申上り申上り候  
申上り候段又も申上り申上り候

寛政六寅年四月廿七日  
申上り候段又も申上り申上り候

末武拾儀

瑞正院殿清佛供料清書

在之色に候段又も申上り申上り候  
少在のりたるは清書  
寺社に在り候段又も申上り申上り候  
お名代清書申上り候

如的例之云云少元以爲大寛政三年  
二月先任僧正物之氣、并源氏云  
似才以知爲名代主智新味院心光中  
方寺社以女以流取也了中以大以元  
新例亦も書面取見不中以以以中云  
少

上月

凌雲院書大信云

清佛供料、清書付少渡、之節  
凌雲院書大信、名代、者、大信  
書付少渡、名代、者、心光中、方  
少渡、也、亦、取、知、心、光、信、新、例、亦、以、尋  
、之、中、以、方、書、面、取、見、不、中、以、以、以、中、云、  
凌雲院、方、取、糾、心、知、亦、紙、在、中、出、方

進達仕以

上月

惠恩院  
櫻伽院

凌雲院、ハ、概、而、ハ、美、心、以、書、付、大、信、  
若、出、以、書、面、取、見、不、中、以、以、以、中、云、

寛政七年卯年十一月十六日  
高木新三郎  
田中吉房  
同命身お尋以願友之通

之元

沛尼除沛尼除沛祈禱料  
公方様 大納言様 左大臣様 右大臣様  
右大臣様 左大臣様 右大臣様 左大臣様  
記御新焼之御焼夫仕以板お分り  
及去是也  
沛尼除沛祈禱之御名奥奥先女方  
之御連名之御外之御祈禱向  
御名之御明和六丑年七月之御振合  
丁方少様与幸存以以候以尋  
幸中上以候

卯  
十一月

海川  
之元樹玉院

之元

盡運院  
獲靈院

浪三枚元

在名明和丑年

沛尼除沛尼除沛祈禱料  
公方様 大納言様 左大臣様 右大臣様  
右大臣様 左大臣様 右大臣様 左大臣様  
御名之御明和四年八月九年之御記  
沛尼除沛祈禱之御名奥奥先女方  
之御連名之御外之御祈禱向

子 任付の事 別記に在りし

在りし相違の事は在りし

十二月十六日 浪川 靈運院

復靈院の口年以來病死の  
當時の事は与後傳の中に見

津守の甘書附と申す

明和六年丑拾月十八日未寅年

津守様津守守守の事津守除少祈禱

公方様 大細公孫様

作付の事大奥の老女流の事  
此の事は津守の事

料白浪之牧の拜願仕の時  
老女流の名前左之を以て

公方様附 松 浦

高 岳

澁 川

梅 田

清 橋

浦 田

大細公孫附 岩 橋

津 乳

室 津

存りし相違の事は在りし

寛政七年

卯十二月十日

佛性寺

清書

此度清書... 尋以後知  
六五年

清書... 祈禱料

公方極 大細... 宣公後表白

... 宣公後表白

... 宣公後表白

... 宣公後表白

... 宣公後表白

畏以

右明和六五年

清書... 祈禱料

作... 祈禱料

云方極 大細... 祈禱料

白根... 祈禱料

... 祈禱料

... 祈禱料

... 祈禱料

... 祈禱料

... 祈禱料

一 清書... 祈禱料

... 祈禱料

... 祈禱料

... 祈禱料

... 祈禱料

... 祈禱料

... 祈禱料

一 明和六年

津島振津之拾二家津前厄年片  
年中津前厄津所禱六月  
任才少更支和破換以舞以分  
总以同年拾月未寅年正月津尚  
厄津所禱

公方様以由白之  
不中宜以津以老女書禱後高岳  
津河成梅田成津禱後津河成在  
右同年日月

大納言物由白之右由由津所  
禱以 任才白根之枚津所禱料  
不中宜以津以老女書禱後高岳  
宜津成女由白之任換以美

以在由由

寛政七年十月

小石川 妙傳寺



延宝八申年十二月廿一日

一 德松極近 西丸上 德清極澄彼

一 津致 丁お清 寺西丸中 列位 徳後

寺人宛

西丸日八人

西丸若番

寺人宛

大目付

寺人宛

水目付

寺人宛

寺若 右 筆

寺人宛

此 回 明

同年月廿二日

一 德松極末 寺西丸 移徳清 門方 此

徳元 寺西丸 清道 具 敬上 廿八日 寺西丸 極

諸 大 名 寺西丸 極 者 上 申 此

同年月廿七日

一 美君 係 已 別 西丸 寺西丸 移 徳清 道 節

一 津中丸 在 慶 而 日 寺西丸 閣 為 肉 搦 田 通

西丸 寺西丸 入 此

同年月廿晦日

寺人

一 紀伊 敏 水 戸 敏 甲 府 敏 西丸 寺西丸 出 仕

尾 張 半 納 寺 敏 名 代 侍 若 日 寺西丸 何 登

貝 塚 奏 寺 西丸 極 者 上 申 此

一 津 之 家 西丸 方 西丸 廿二日 出 仕 太 刀

貝 塚 右 方 此

一 元 日 津 中 丸 寺西丸 出 仕 寺西丸 廿四日 西丸

寺 津 中 丸 貝 塚 廿二日 申 刻 寺西丸 後

寺 使 名 西丸 寺西丸 知 寺西丸 但 寺西丸 名 代 使

一 二 日 津 中 丸 寺西丸 出 仕 寺西丸 廿四日 西丸

寺 津 中 丸 貝 塚 廿四日 申 刻 寺西丸 後

寺 津 中 丸 貝 塚 廿四日 申 刻 寺西丸 後

西九の執事之事

一 二日 津本丸に出仕之西々同日西九  
宅 殊た日身塚ハあり已別使を  
西九と執事と

一 壹万石少下の子名少と云

津本丸にお仕た日身塚を少字左様  
の通に使を名の者上之中に出入御  
執事昭ら答者番に於未遠迄細  
使をにおま務り

但の子石少と法度法尔法眼

一 伺におおりの

一 想西の流に津家、医師兼少使務  
所人お 西九 六日七日 五日の夜出仕

享保二酉年正月廿日

松平左内少輔

御番

金部万友

水戸中納言致

上使升上付目

川原風一  
川原重一

季君少方

川原風二

同 少将致

右者少御殿 致焼 分少七之

一 册日抄 寺

津城 以 起月 紅子 山 口 付 川 佐 弱

清成河經山名仙石丹別橋田依別  
其後山成河恒山山名山山山

一尾張敏紀伊敏分略日去年八月何  
清磯總住山山山山山山山山山

其後山成河恒山山山山山山  
此外 敏中智儀不取山山夜山山山  
伊豆山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山

同年四月十一日

山山  
松平儀前

今日公家祝青松寺天德寺松山

上使升山何山山山山山山山山

山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

同年十一月二日

山山  
二浦山山

山山山山

山山  
松平對馬  
去山山山

右山山 右山山 山山 山山 山山

山山 山山 山山 山山 山山

山山 山山 山山 山山 山山

山山山山

山山山山

山山山山

山山山山

右山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

享保四年二月十八日

竹版三

加茂燈河

口

皇合橋津

右傳 卷五 發水 曾法 如來 舟 舟 以

廣 矣 其 下 之 舟 以 先 中 列 在 山 嶽 之 後

以 傳 渡 頂 敷 之 善 年 易 流 以 在

浪十枚

千種 元多 諸

口

森 長 四 市

右 傳 以 舟 以 舟 業 幼 在 於 嶽 山 嶽 之 後

以 傳 渡 頂 敷 之 善 年 易 流 以 在

進

渡 頂 敷 之 善

小 曾 法 改 故

橋 後 左 門

浪十枚

小林 名 卯

燒 火 之 乃

小 曾 法 方 橋 案

小林 河 波

浪十枚

溝 口 九 多 橋

右 傳 以 舟 以 舟 業 幼 在 於 嶽 山 嶽 之 後

以 傳 渡 頂 敷 之 善 年 易 流 以 在

中合書板

湯席

宝曆十二年十一月廿七日衆女飯口  
達之是也

一中奥山奥花板

西丸湯席、後全衆大座、乃方湯山  
乃右前、格も有之、乃中奥山奥花板、  
乃右後、乃其茶、乃乃湯下座、乃  
乃依座、乃中奥山奥、乃衆女飯口、乃達之是也、  
中

押合右手湯山奥書板

宝曆十二年十月廿七日朽木板、乃乃  
合

一中奥山奥花板、乃乃

西丸山奥湯山奥書板、乃衆大座、乃  
乃乃湯山奥、乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

但山奥山奥乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃中合者、乃乃乃乃中奥山奥乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 明和二年十二月六日寄入何事抄始

何事合方々

一 寛政元年六月廿七日寄入何事抄始

何事合方々

一 寛政二年十二月廿七日刑部左衛門尉

仰出

廿日何事合方々

寛政二年十二月廿九日紀伊守辰平合

口演

清府内事所外宛之返分去之甲年  
中事所方々之知事等之録之  
寛延元年三月江戸拂出仕並  
本所深川町事所支配場限持也  
の中分方事書書入一の中候  
領物品川板橋所領物品川本所  
より内事所江戸拂出仕之箇條  
お務り方相而深川分内も事所  
目録之取入行方録之申付候  
目安事書初別之申付候也

江戸町中事所始何事抄 月表  
一 門番並候内儀他之者大 町事抄  
清府内、之公出入 事書

右之包江戸町中幸社所領之田  
 涉野田田を以て江戸領之田と  
 一戸小並に谷大木戸子屋極務之  
 八取分以て右不川中源川之限  
 取分ノ意以て且右江戸拂所極務  
 不品川極務子屋中源川に谷大木  
 子ノ田ニも涉料又之私領寺社不  
 所事ノ支配ニ分ル右極務之田  
 所事所支配極務之田に涉野田  
 取分極務之田右極務所領之田  
 四谷大木戸並ノ田ニも取分  
 出入ノ田者並進ノ田者別一  
 喜判ノ事取分ノ方ニ一ノ書  
 取分ノ事取分ノ方ニ一ノ書  
 右ノ取分巨細ニ取分ノ事取分ノ事

但所事ノ支配ノ者右分江戸  
 田者新當又右不川子屋ノ事  
 右取分ノ出入並ノ極務ノ上  
 定取分ノ取分裁許ノ事ノ取分  
 右ノ取分ノ取分ノ事ノ取分  
 寺社分不川子屋内者新當ノ  
 者右ノ事取分ノ事取分ノ事  
 右ノ事取分ノ事取分ノ事

二月

下九

右書向不川中源川之限八取分  
 支配極務之限ノ江戸拂  
 所極務所不川極務子屋中源川に谷  
 大木戸分田小並料又之私領寺社取分  
 以て右取分全ク江戸拂所極務所領

山所内、竹山料、私願寺社、修、示、方、以、大  
丈、之、名、約、山、所、内、と、お、し、り、中、の、大、場、を、  
越、し、奉、り、支、配、傷、も、方、く、し、り、江、戶、拂  
出、構、傷、而、亦、八、七、支、配、山、所、内、と、  
し、り、所、在、上、の、且、山、川、子、信、事、而、深、川、と、  
江、戶、拂、出、構、傷、而、亦、八、七、支、配、山、所、内、と、  
因、若、新、局、言、も、宿、方、系、所、方、と、の、  
大、と、お、し、り、山、所、内、の、出、入、ハ、所、在、の、山、所、内、と、  
ら、も、七、日、宿、方、書、若、出、一、來、全、報、出、入  
度、そ、う、公、生、年、許、主、前、若、紙、も、江、戶、拂  
一、夜、連、中、公、政、許、主、前、押、切、若、紙  
を、一、材、方、変、り、山、所、内、一、夜、連、中、若、紙  
を、一、來、中、の、右、ハ、山、所、内、准、一、夜、連、中、  
來、山、所、内、江、戶、拂、出、構、傷、而、亦、八、七、支、配、  
大、本、山、所、内、も、宿、方、系、所、方、と、の、と、

お、し、り、山、所、内、の、出、入、ハ、七、日、宿、方、書、若、出、一、來、全、報、出、入  
加、り、山、所、内、一、夜、連、中、判、り、一、細、紙、存、り、  
成、  
十月

尾崎 又 右邊

天和三年六月廿八日  
貞享二年二月廿八日  
元禄二年五月十五日  
口 又甲年十月朔日  
口 八亥年十月朔日



口十二卯年九月廿八日

口十七卯年五月廿八日

宝永丑子年二月廿八日

正徳元卯年二月朔日

享保七寅年十二月廿八日

口十五戌年五月廿八日

大坂町人

尾崎又左衛門

寛保二戌年十月朔日

延享三寅年十月朔日

宝曆土巳年十月十五日

明和九辰年四月朔日

天明元丑年四月廿八日

右之通 天和二亥年分享保十五戌年

とハ尾崎又左衛門と有之寛保二戌年

又右崎と有之

六月

享保七寅年六月廿八日

清白書院

清書録

系上

紅糸巻

大坂町人

名被

又右崎

口十五戌年五月廿八日

日記

系上

紅糸巻

大坂町人

尾崎又左衛門

寛保二戌年十月朔日

涉攻一回

徳月（以）紀

大坂町人

紅葉寺（以）介

名振寄

尾崎又左衛門

延享三寅年十月廿日

りり

徳代（以）紀

大坂町人

紅葉寺（以）介

名振寄

尾崎又左衛門

宝曆十一己年十月十日

りり

徳代（以）紀

大坂町人

紅葉寺（以）介

名振寄

尾崎又左衛門

明和九辰年四月廿日

りり

徳月（以）紀

大坂町人

紅葉寺（以）介

名振寄

尾崎又左衛門

天明元丑年四月廿日

りり

徳月（以）紀

大坂町人

紅葉寺（以）介

名振寄

尾崎又左衛門

苗番

享保十亥成年六月廿日 戸田越前守

被露苗番様

北次一回

又左衛門

在尾崎御又左衛門松林申度様寄

一尾崎又左衛門

清目見之儀世乃古波丹後坂月廿日

又左衛門尾崎御又左衛門松林申度様寄

此書出のた書けり凡海又た是の書  
此書出のた書けり凡海又た是の書  
此書出のた書けり凡海又た是の書  
此書出のた書けり凡海又た是の書  
此書出のた書けり凡海又た是の書  
此書出のた書けり凡海又た是の書  
此書出のた書けり凡海又た是の書  
此書出のた書けり凡海又た是の書  
此書出のた書けり凡海又た是の書  
此書出のた書けり凡海又た是の書

も凡海金又た是の書

寛保二戌年十月日

少次一四

陸目  
紅糸

凡海又た是

延享三寅年十月日

此次一四

清代書三ツ元  
一木一木

表野  
榎  
坊

口

紅糸一介

大坂町人

尼崎又左衛門

右各被寄

南島

宝曆十三年十月十日

松平和泉守

りり

少次一回

細江和光

知事虎若守信代

任事寺

一巻一介

許留之

遠田社

性目

塚

麻子

御代

尼崎又左衛門

紅糸一介

赤上

浪年

中村春吉

りり

右知恩院代傳重國社家給而了取  
尼崎又左衛門浪年寄と被寄

物寄

七波良

明和九辰年四月

少次一回

赤上

本因坊

麻子

春将素者

りり

性目  
大坂町人

尼崎又左衛門

紅糸

右和因坊春将素者  
者尼崎又左衛門

与松高

南表

天明元五年四月廿八日

安發對馬守

リヨ

此夜一回

初之清目見

永徳也

其書

麻子

狩野永賢

休月

大坂町人

此書又書

紅糸

浪瀬川用古柳紙

大島長左衛門

紅糸一付

糸上

幸若小八郎

幸子依

口

目之書

麻子

口

目小一在

リヨ

右狩野永賢此書又大島長左衛門幸若小八郎二書在馬小一在馬と松高

寛政八丙辰年二月廿七日下野反宅内  
考合

法源坂(左)

山城五高野路橋津中  
橋高太の神神主

橋中太和

右津州之石段而持心者九條家  
執 卷之甲口 宣而持心者一以終  
中五知由在津後之上下包上卷出

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

寛政八丙辰年正月廿七日下野反宅  
之相續書之因

其後以之

和光祖里村昌孫依

東照之孫三別是持 津上城之山時

其在出津連之乎以用和和以分

名德院極清代元和二年必光親

津兼尔沙書改沙加下和以言首在  
地方及職仕甚峻常杖持計捨人使持以  
加修其成不私志七代年始沙體式以用  
之得寺新復加和格路有仕人其事公  
与祖父昌法公代之法眼之信才也遂師  
因席之与府中八月以沙以沙後  
事何何様娘也其也醫師善也也  
協仕也典藥以之也法尔法眼之也

師回席上無不於京師亦可代以沒宅其  
名以此毅而師施藥院山服乃佛法眼未  
回席上每案上二月廿八日未解之師終  
之末一平執上仕沙白書院強出福光  
中六年始涉終之書八沙方乃馬代  
眼執上仕大慶乃二之乃法平法眼之  
此聲而之曰上出

清目見仕之後以中在出清流時收  
頂戴仕万塔 清目見少之以此收  
以在以此而之以此而之以此而之  
沙在中方書社以此而之以此而之  
而日代少沒宅上以此而之以此而之  
或着也世送之全 清目見少之以此  
少收之以此而之以此而之以此而之  
一旦涉沒少知之以此而之以此而之

振念之以此而之以此而之以此而之  
之考以此而之以此而之以此而之  
祖之在神表端之以此而之以此而之  
以此而之以此而之以此而之以此而之  
願以此而之以此而之以此而之以此而之  
以此而之以此而之以此而之以此而之  
清目見少之以此而之以此而之以此而之  
以此而之以此而之以此而之以此而之

公儀之以此而之以此而之以此而之  
方其外涉沒家之以此而之以此而之  
以此而之以此而之以此而之以此而之  
涉用表以此而之以此而之以此而之  
以此而之以此而之以此而之以此而之  
以此而之以此而之以此而之以此而之  
以此而之以此而之以此而之以此而之  
以此而之以此而之以此而之以此而之

於此後之連平師之若日之混雜仕家  
此之幸存の私象之儀ハ若依中上ハ在外  
連平師大之ハ格外法遣以依存右等  
之儀清由只象之ヲ預之通注  
經才下之未伐之表格也立の二一  
雖有仕合ま存の何分之也若書新之也  
此 經才之儀存之也

卯二月

黒村昌逸

寶政八丙辰年二月九日也

此同清尋の儀ハ山王神主樹下日向  
先祖之儀ハ若未之儀ハ何分之也則依存  
中知の山王神儀之儀ハ山門坂  
勿海何方之也若何象分許也等  
中清の儀ハ若未之儀ハ何分之也則依存  
此 經才之儀存之也

二月

惠恩院  
櫻伽院

伏

江戸山王清鎮社之儀ハ日若苗字  
云代神主職也知也

元祖

日若右馬



注口徑下

日者大厩亮

注口徑下

日者大厩亮

在大厩亮後元祿十丑年閏二月  
清無由元福所修歌之身清之氣  
多々双方回時之死去仕也

日者大厩亮

日者大厩

在元祿十丑年月日不知如何  
日者社職之注口徑下

常憲院採清代元祿十丑年四月注

江列坂本注口徑下

清尚社社主職注口徑下

注口徑下

注口徑上

樹下氏納補

此者在享保二年奉督  
仕口徑下後階書為  
也

樹下氏納

注口徑上

樹下氏納補

注口徑上

樹下氏納補

在樹下氏納大補之亡父納補正  
樹下苗字曰代也

樹下日向

二月

寛政八丙辰年

二月十七日

一 伊豆と最上との間に山崎の寺社奉行を

寺社奉行

支那勘定

許金宗為役物

西文雲九

支那勘定

野村宗右衛門

山崎奉行

山崎奉行

大塚亀三進

右所奉行支那勘定

江村の席の職名寺社奉行支那

勘定  
右の寺中後山崎の寺社奉行

右の寺中後山崎の寺社奉行

二月二日

一 左之書付伊豆と最上を最上奉行

一 左之書付伊豆と最上を最上奉行

伊豆と最上を最上奉行

書面個通おる山崎奉行  
寺社奉行支那勘定  
許金宗為役物  
西文雲九  
支那勘定  
野村宗右衛門  
山崎奉行  
大塚亀三進

支配勘定

小田切吉次

坂本徳次





羽田殿大進

寺社奉行 寛政三亥 羽田殿大進

股分控入進

右へ通新親状 仰付有未也少役  
杖持少下少引付事 彼出切取  
少役杖持 向後寺社奉行 申取別々  
丁法相殿 申事

寺社奉行 寛政三亥 羽田殿大進  
元少部 申取別々 申事

平山六左衛門

右へ色新親状 仰付有未也少役  
少役杖持 申取別々 申事  
申取別々 申事

向後寺社奉行 申取別々 申事

寛政三亥

二月 采女

和泉 伊賀 丹波 越中

伊賀 丹波 越中

一 小田切七左衛門 申取別々 申事  
一 祝い事 一 申取別々 申事  
申取別々 申事  
申取別々 申事  
申取別々 申事

いししとる多支相成りし中加先り  
山部定孝の川送た書記在也  
根名肥前と云々是の同人が前文  
多支の記名有る事川合記に於て此  
川右川合海一源等一記多支記  
川書川送の

川右川合

一 古く書有 法隆寺 小支記 川右川合

辰巳月廿九日

宋女二版所也

月汚  
改定  
川合  
甲斐

二支の

寺社本の吟味相誤所  
吟味相誤所部也

右寺社本の所支記尚誤之候  
向後所支記之誤名相改下  
年此其外亦定玄猪等之候  
先達と相違ひを前書之候  
相誤

一 評定書尚誤之候  
以の一回 評定書尚誤り相唱  
川合の支記吟味相誤所  
尚誤何れも相方各持前  
評定書尚誤之候  
一 評定書尚誤之候

作付の形に於ては、座領を以て、評席  
其外如後、付の儀を打込の如き  
の儀に

但、寺社奉行支取の内、廻路格ハ  
評定所南段廻路に於て、打込  
年始を初く、順に存と通して  
評定所南段と方角八南段一回  
と世に改之、新古と存之仕  
事

存之を以、作付の形に於て、  
の形に於て

四月

同九日

一、寺社奉行、後、分、打込

中紙、程、村紙、二、打、  
の儀、の、形、に

少、以、柳、案

此、部、之、事、以

之、元

寺社奉行支取評定所南段後  
向後寺社奉行吟味打込と相  
の、形、に、  
の、形、に、

寛政八辰年  
六月

春山下郷  
板倉周防  
昭政法治  
松平在東庵

柳生主膳正俊





向後書法事の吟味抄調後方抄  
以紙に紙後以方事替身の中  
少の一事下以少

寛政八年

五月

喜山平野  
板倉月房  
服坂清隆  
松平在東也

柳生之膳

久世丹後

根岸肥前

曲淵中津

里末籠前

作之春八

大久保四郎

肥田中津

鈴木新左

三橋右馬

五月廿四日

一 友之書分法

辰六月廿日宋女山版友之書分法  
右在馬山に尸と相同人批三書面信用  
尸す以竹判同人と相候何紙に判  
自分曲調申渡さし書面を相合  
尸判以書面を兼付し左在馬山  
宋女山版に何事も尸周候  
廿一日用訪友に批在馬山

書面を  
と承知  
こ  
左在馬山版  
服坂清隆





一 方と存い

一 此一症を吟味物家此一症は必ずしも  
諸向を相伺ひ得ぬ物に扱ひ候へば  
之留候申交り候へば一戸候へば  
少く先共今と寺社奉行宛支紙津書  
為候も人教抄の申身分相もとも  
支紙留候申交り候へば中の何事  
吟味物留候も人教と候へば今と  
之を相伺ひ候へば一戸候へば  
寺人教抄の申身分の致存い

一 留候組の候へば評定書の清用向  
此方端末を講より引渡す候へば  
此方支紙吟味物留候評定書  
之等之類方は留候組の差別  
留候の申交り候へば

右と通回在り候へば此類の候へば  
吟味物留候の候へば

辰六月

此書西の申身分相もとも

辰六月

寺社奉行  
町奉行

辰六月六日差出申付札書

旺田 辰六月  
望野 辰六月  
平山 辰六月

一 評定書の公事奉書は留

一 留目安差紙渡

一 押切書付渡

右に付条々を記し申付候へば  
之留候申交り候へば

何れを以て此の如し。

辰の月六日辰の口廿日辰の辰の辰

村田友左衛門

辰の月  
村田友左衛門  
甲斐守辰の辰  
平山六左衛門

と云ふ事申す事今般一因許言余  
南段と申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事

今般私名申す事今般一因許言余  
南段と申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事  
と云ふ事申す事おれは此の事申す事

一 評言の面談の方より為談一回を  
涉致之新古申上程可仕りて者  
上名私後評言の面談は行はれ  
心部之評言の面談有之の辨  
心部定程格も評言の  
其より、次席のお心付  
當時の面談を私より古き  
心部は致私の上程仕りて  
其共評言の面談を  
相見得る上は致し  
辰  
評言

寛政八丙辰年三月

辰

寛政五丑年正月廿日  
本院持来の書付  
日光社家六人  
此書之立  
卷之別  
勅評相  
別紙之通

正月  
社家  
竜王院

在指  
後  
跡

駿河介

江橋大膳

近江介

猪猪子

上野介

中麻呂修理

土佐江介

右衛門

伊勢介

右之通

惠恩院

櫻伽院

三月

寛政八辰年七月六日

日光山一坊之後名慈眼大師中興

之末修驗道終行之者之俗

日光山伏之山

控現極淨真住之末

御宮向末新以之牙

一宗官修之新素給之系

為用仕之故寶永年中急度

至小一坊大之修驗以故

非名常之官修之形

中一

淨修終之修之淨供

之入者全之修驗之法





出世より此住の事

一 卯子七一那修験の師より一山元住

より旧く此化振より一坊より卯子に

成り候ハ少少住の事

存之故上野権南中園の事

七月

宝永七年寅月日光

清直山之節法 仰出取方

一 坊より若知の書付の方

若知の書付の事

一 入峯并大千度之執以住居之在

叢密にお初願情旨略く候仕り候

いり

一 近年一坊中祈禱札式ハ牌巻之類

記字より極大傍却等より官名様と

書付の向後名官名書加する候事

一 坊に祈禱名先想く全度装束并純子

繡珍々條為用は式外素絹袴而

加装束等若用仕り候事

右之條より住居未決と云ふ此住の事

近年櫻々若成り中及此所法より

今般水制禁法 仰出少額一寺

畏い向後と急度お守承て遠犯仕

り候り若官制と業公必何極と曲り

と候り法 仰付の事 後程候候事

宝永七年寅月

佛岩惣代

正任坊列

东山惣代

日城坊列

南谷惣代

通勝坊列

西谷惣代

永南坊列

善養寺惣代

大輪坊列

修学院坊列

櫻伽院坊列

新光院坊列

大樂院坊列

光樹院坊列

山口萬書版

一正徳三年九月廿 何れも同

一坊ハ常々木綿衣版ニ着用

津宮 津堂ニ着るも白木綿

版ニ着用す

右ニ包辰七月八日持出是等部を為す故  
衣衣ハ故々 内書ニ着るも五部大ニ書版  
左ニ包

辰七月廿日伊豆屋ハ是印部を為す故ニ一ノ方ニ着る

云々

日光山一坊名素竹の條不着中世  
先年ハ着用も有之故ハ此ハ一の

以より何おく法をいね止りやれ  
うた中園の

寛政八辰年七月十日下野毎の借方

河野町在馬橋

惠恩院

何り大在馬橋

櫻仙院

右田又八郎

此手紙致すに以給者南山山表に

清靈堂此の今十日百六十日とハ

養時とて同キるに以給に以給る

七ツ時と書付とて清靈堂此の今

も亦養又の養とて此の清靈堂此

此の清靈堂此の今十日百六十日とハ

養時とて同キるに以給に以給る

七ツ時と書付とて清靈堂此の今

も亦養又の養とて此の清靈堂此

七月十日

盆中此の今十日百六十日とハ

苗山

清靈堂此の今十日百六十日とハ

一表方

清靈堂此の今十日百六十日とハ

十二日 養時とて同キるに以給に以給る

十四日 明六時と書付とて

十六日 明六時と書付とて

一 寶樹院極清靈在

十二日

十四日二日午曉六時分七時迄

十五日

一 隨性院極

清靈在右のり

一 淨光院極

一 長昌院極

清靈在右のり

一 高藏院極

一 光明院極

清靈在右のり

一 公親院極

一 宗壽院極

十四日

女日午曉六時分七時迄

十五日

一 淨象院極

一 淨德院極

清靈在右のり

玉心院極

蓮光院極

此在の邊共清のり之邊右のり門の園キ

右之通ニ此社ハ

七月

惠恩院  
楞伽院

盆中清光門の邊右のり清光院極

ツレ

清高山

清靈在盆中清光門の邊右のり

七時迄十四日六時分七時迄十五日

時六時分七時迄

右之通公也

御書方極清靈堂是又靈中此門  
方之靈大也極靈之靈清守靈公

此頃相續の事也

清代極清靈堂十二日迄八時分

七時迄十四日曉六時迄七時迄

十五日曉六時迄七時迄此門此門

且

清靈守極清守身靈堂中清靈

之後も前文の如く極清守の事也

尚向々々々々々

右位沙尋中上公也

増上寺

役者

七月

寛政八丙辰年七月十六日用務

清靈の事

松平右京三屯

板倉因幡

以手紙の上仕の清靈の事

恐らく物之口清靈の事

以而も清の事

城の事

中々守の事

清の事

別紙の事

本朝の成敗は自書に上りては  
略矣以て事の上は成敗の事  
以て

七月十六日

信加守高政は内清田路に野川  
波合人川帯川在りて分名  
は尚妻と相留女通行の事  
此代官領主は難文を以て  
以て又も各代官に於て  
色は難に成事は此代官  
番所ありて高政は中少の  
成敗及此を以て

高二月

内園の外内書面は尚妻の成  
此代官領主は難文を以て

高二月

元禄四年

六月十五日 西天辰后刻止

一 例月之涉移

一 山王祭礼 西天辰后刻止  
但亦不祭礼之与相移之

六月廿一日晴

一 山王祭礼 神樂之庵 延以流以

二人 前田孫八郎 組共新之社 延以

道公御儀法存 不知何月之入 延以

伊東 井川井流 延以 延以 延以

延以 延以 延以 延以 延以

延以 延以 延以 延以 延以

延以 延以 延以 延以 延以

一 山王祭礼 上覽已后刻 延以

延以 延以 延以 延以 延以

延以 延以 延以 延以 延以

延以 延以 延以 延以 延以

一 清光 牧野 延以 延以 延以

用方

一 涉供 松平 延以 延以 延以

一 延涉 延以 延以 延以 延以

延以 延以 延以 延以 延以

延以 延以 延以 延以 延以

延以 延以 延以 延以 延以

延以 延以 延以 延以 延以

退去

一 西角 延以 延以 延以 延以

一 秋元 延以 延以 延以 延以

同十二年

六月十六日 恒今曉 百夫平刻 而止

一 例月之涉禮 之

一 山王祭 禮 而 延川

六月廿一日 晴

一 山王祭 禮 而 延川 之物 黃金之枝

亦進獻之

一 山王祭 禮 而 延川

卯中根字 念

山王 念 禮 組

神樂 押

卯中 念 禮

柘植 念 禮 組

卯日 付

長田 念 禮

作 檜

卯日

山中 念 禮 組

適中 念 禮 組

卯日

六編 念 禮 組

卯日 付

紅葉 山下

佐久 念 禮 組

卯日 付

外 着 念

古 念 禮 組

卯日 付

中 根 字 念 禮 組

川 邊 念 禮 組

是 年 八 月 初 日

卯日

卯 念 禮 組



水道具六組

小泉云庫組

卯花房部在焉

三上米子清組

日人老道

夏目友右衛門組

右之知西徒月村小人月村并所行

之与力回公知之

一祭禮后 上質已后刻 跳橋身門上

渡清 以子持 供寺 以例 元水野 肥前

安後 出雲 与 月村 赤井 七 市 持 清 以徒 以

筒井 二 部 在 焉 組 在 其 外 以 近 野 以 例

以例

一 清先 秋 元 但 馬 与 本 多 伯 耆 与 以 例 元

友 堂 伊 豫 与 系 上

但前居云元中雖在後云高云年云云云云

河部 延 中 有 多 留 之 内

安永九庚子年六月十四日

一 明朝 自 分 正 六 时 致 出 宅 以 美 西 天 之 分

多 礼 不 相 成 以 程 之 以 与 柳 操 也 一 以

与 之 西 天 之 以 的 名 先 修 之 在 多 礼 相 成

柳 操 也 以 希 西 天 之 多 礼 延 引 之 以

月 美 因 情 友 之 别 高 神 主 之 原 出 以 以 之

不 悉 自 分 方 之 在 之 以 以 以 以 以 以 以 以

也 引 之 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以

上 夜 而 不 相 成 西 天 之 分 多 礼 延 引

之 以 大 月 村 所 事 以 之 自 分 之 案 内 也

例 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以

城 之 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以 以

上 所 見 而 不 相 成 以 上 也 引 之 以 以 以 以 以

大 月 村 所 事 以 以 以

上流而波逆散在川用兼心宅也其誠  
以屋中達少甲宜方因悔故也少少  
明也 上覽而心水相法以大目 甘  
作有伊勢少所事乃牧野大淵少骨牙  
港川相換少少方大目甘此目甘少  
前文之類少使並大淵之令口覽  
城少少方曲側甲變少中法大淵  
色達少少少少少少少

一因播波少上村海少少少少少  
例書相少少少

河海中少

庄田園極少

以少少少少少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少  
高朝面天少少少少少少少  
神主少少少少少少少少少少

天少少少少少少少少少少少  
依後少少少少少少少少少少  
相少少少少少少少少少少少  
上少少少少少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少  
水少少少少少少少少少少少  
上流而心少法不誠少少少少少  
也河少少少少少少少少少少少  
此目甘少南少少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少少  
上覽而心少法少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少少



西天ニ此庄ハリク在ニ故ニ其後唐ノ  
中上ノ事ニ与ルニ其ノ少

六月

親理院控層  
樹下采女

天明二寅年六月十六日月防坂ノ家ノ海  
表出

河波使中

山王寺ヲ若南朝ノ天ノ系ヲ  
此ノノ故ノ南朝ノ屋出ノ行  
月番寺社ヲ其ノ中  
上ノ賢ノ相法ノ田波ノ中ニ其ノ相法  
ノ者ニ其ノ用番寺ノ中ニ其ノ相法  
ノ屋中ノ中ニ其ノ相法ノ中ニ其ノ

延引ノ後唐ノ相法ノ月番ノ者  
當番ノ月付ノ中ニ其ノ相法ノ  
中ニ其ノ相法ノ中ニ其ノ相法ノ  
後ニ其ノ相法ノ中ニ其ノ相法ノ  
ノ者ニ其ノ相法ノ中ニ其ノ相法ノ  
此ノ用番ノ中ニ其ノ相法ノ  
ノ者ニ其ノ相法ノ中ニ其ノ相法ノ  
吹上ノ相法ノ中ニ其ノ相法ノ  
延引ノ後唐ノ相法ノ中ニ其ノ相法ノ  
當番ノ月付ノ中ニ其ノ相法ノ  
出羽ノ後唐ノ相法ノ中ニ其ノ相法ノ  
吹上ノ相法ノ中ニ其ノ相法ノ  
ノ者ニ其ノ相法ノ中ニ其ノ相法ノ  
此ノ用番ノ中ニ其ノ相法ノ  
ノ者ニ其ノ相法ノ中ニ其ノ相法ノ

六月十日

新編中

別紙之を出所と成り上目所用最上之  
所屋も先捨之をいふ名は廻り仕り色又  
祭礼廻り之屋上之名も速に便之  
所屋一上之名も上村所之名も平合之  
所用最上之屋八廻り之名も上之名  
以り先捨之をいふ名も廻り仕り色

六月

右別紙に朱書之を達書おれり  
同波流下支をり死く

清簡書之目書板

寶曆八年十月

上野増上寺山内之知成矣方家来  
之布之之致至子之致之布若愚堂  
入込居之名も有之名も有之名も有之  
以り盜賊改組之者も有之改組之  
有之級也之可達達也

十月

明和九辰年二月

寺法事

上野増上寺山内之知成矣方家来  
之相也怪我者見高之山也

長連政公味以若、以成後上野概高  
増山寺に十一日連立に

寛政八辰年九月廿二日詔勅寺分差出

已元

一本山年教

以儀古和山、恒山之り、年教  
寺分差出

一田舎年教

以儀八田舎、淡林所、夏冬教恩  
儀、如席仕以年教、寺分差出

一節許状

以儀古和山、苦提院、結流席、  
一福席、玉、史、一流、重立、寺  
院、持孫、知和山、結化、頂戴、  
免許状、寺分差出  
右之包、寺分差出  
九月廿二日

同月廿二日、和文、同寺分差出

已元

一許状、寺分差出

東照宮、和文、和文、結化、儀分、  
清康、和文、條目、寺分差出、免許  
状、寺分差出

一和山年教、寺分差出、寺分差出

中三拾年々四拾年修之任山  
 留字之切と積而化之身一為席は  
 進之の長而之移轉寺明々功牙  
 能化之住職は中付不し以初  
 許北頂戴仕しと常許北と中以後  
 後持寺は相進以節八本山年教之  
 多少之より右先齋許北中修以  
 之より先少齋能成以成之此程以程又  
 一前席の功牙之進之以人々田舎  
 年教之不用強而少此程以  
 一田舎年教之中事以候名於本山  
 武拾々年之留字之切と積而之能  
 より許北仕出以  
 清象有清條月之表之此程以程任山此程  
 々年不候之より此程以程任山此程

夏冬之教恩清相勤以年教之  
 相是之此拾々年許北頂戴仕以此  
 田舎之年教不用此程以  
 右之通相遠之此程以

九月廿二日  
 本所  
 深部寺

寛政八辰年十一月十二日水右筆出本

勅書に相違之

寛保二戌年

源象院極十七回清忌手紙の修訂

右者

有徳院極清代

延享三寅年廿一回清忌手紙の修訂

寛延三年年廿一回清忌手紙の修訂

但此書多  
長門の版に似て

右者

有徳院極大清西極手紙の修訂

宝曆八寅年二拾二回清忌手紙の修訂

修訂

右者

有徳院極其宛清忌手紙

安永己未年二十四清忌手紙の修訂

玉公院極清忌手紙八十四清忌手紙

百回手紙十七回清忌手紙二十四清忌手紙

手紙の修訂

源徳院極二十一回清忌手紙二十四清忌手紙

清法會八回手紙の修訂

右者延享元年正月山

清法會清安手紙の修訂

手紙の修訂

惠恩院

櫻伽院

上月

同年四月十四日口人相違之

源徳院極二十四清忌

右延享二丑年十月清相高之紙



西清九清移智：廿四年八月

清九城亦一日... 清法事

清經五百部

元修百八拾人

同日二十四清志

右宝曆十二年十月清教函

同年九月... 清九城亦一日...

清法事

清經五百部

元修百八拾人

右... 相遠... 清法事

辰

上月

兼教寺

訓醒寺

日月... 日人... 老

正... 書... 中... 上...

源德院... 清... 德

有德院... 清... 德

博信院... 清... 德

二... 己... 年... 十月... 廿四... 日... 清... 德... 寺...

清... 德... 寺... 入... 其... 節... 紀... 列... 叙... 清... 德... 院... 下...

清... 安... 寺... 中... 上... 以... 後... 享... 保... 八... 變... 卯... 年...

十月... 清... 德... 院... 下... 清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺...

清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺...

上... 日... 清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺...

源... 德... 院... 下... 清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺...

源... 德... 院... 下... 清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺...

清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺... 下... 清... 德... 寺...

此法二周清卷之四四卷迄也

紀傳極清法解而二清安在也

以予清法事未清事 紀傳極

法始才以事故用書未也 能能能能

事好以

清法解而清速宜六七四清卷

後二以此卷以均共七四清卷

自公儀清法事亦 仰付此役人

核方清法合也此卷以均故留書

有之在二事好以存之 疑中傳以取能

在在也

享保日己亥年十月

源德院極七四清卷清法事

廿二日清速夜

續經前口卷元僧六十二人

廿四日清當日

續經後口卷

劫合續經六十二卷

享保十己亥年十月

同十二日清卷清法事

廿一日分廿四日迄

續經四百卷

元僧百八拾人

右十二日清卷分十七四清卷共十四清卷

廿四日清卷之十二四清卷之十四清卷清

法事何處右清法極續經四百卷終以

仕以

右之通相遠之清卷以

辰

土月

養教寺

訓耀寺

寛政九丁巳年正月出

乙亥

寛政元酉年正月

津連奇牧野維新と致し去日以前  
表出の帳は江戸の身以候志此高日  
以前一向前々々津用表渡中之外  
他而も表出の帳に於て是と相  
申すは申す或年正月松平紀伊守致  
前書之紙紙江戸の身若年々々通  
了の紙何分極肉と申す表出の帳  
至申す江戸の身八日六一巡差出十日  
致し奇表申す申す後年々々通

相成申す以上

巳  
正月

里村昌逸

同年正月十七日到来

三寶院後書

松平右京亮友  
服政法孫友  
板倉則行友  
高演

風園寺後納然死去謝身大  
風園寺後復蘇二瑞坊总持法  
当山一宗惣加家宗以旦院席戒  
惠院等若信之通申付以申  
遠深冠毫以穴賢

正月四日

松平右亮殿  
服被法衣と被  
被倉用防と被

聖

寛政九丁巳年正月廿九日松月齋出ス

以之云

今地院并配下と寺院也  
被法衣中上之衣等加若若着用不仕  
衣斗云  
清若仕出以候者、以水、以水等、  
以之云

右名年改清法并任職法自清禮  
等、之節者道具名、九條加若衣  
若用仕以月並云節、白木、被、以、以、  
掛緒と名、以、五條、之、小加若、衣、若、用  
仕、以、或、若、品、以、七、條、加、若、衣、若、用、仕、  
等、之、若、別、之、以、若、以、以、以、以、以、  
清礼

清目見中上以後一切、全清法以也

年以清礼堂 城亦道具衣 并  
九條加家(袋)相用(以)節達中(宗)樂  
之(自)或(志)堂 城仕(以)多(為)清(禮)  
以前(志)投(衣)と(中)少(中)九條(加)家(袋)  
相(專)少(中)自(分)之(衣)之(至)又(八)條(志)  
之(僧)之(手)之(至)在(少)少(以)礼(相)始(り)  
以(節)之(及)少(中)若(用)仕(以)儉(志)而(難)以  
寺(院)之(中)法(式)相(行)以(予)以(存)之(通)  
之(儉)之(以)難(以)以(上)

金地院殿名

松月庵

己  
丑月

寛政九丁巳年二月

已  
丑

一西八条六孫王権現社寺号大在寺  
院号遍照心院律志云之論兼  
宗性在(少)寺(勢)亦(之)儉(志)清(禮)  
傳(法)之(外)諸(事)一(本)寺(之)以(在)以(志)  
清(代)之(清)兼(平)殿(中)寺(一)何(之)格  
頂(戴)仕(以)以(上)  
一清(代)之(清)兼(平)寺(殿)式(百)八(拾)之(石)  
門(若)以(所)之(外)  
常(憲)院(採)清(代)社(以)百(石)  
清(兼)平(頂)戴(之)境(清)兼(禮)志(者)  
師(付)若(清)兼(礼)料(每)年(取)兼(百)石  
於(二)條(清)兼(拜)頌(仕)以(以)上

一 常憲院極清代清... 延文并神室仁具  
清身謝具又

清筆之神号清表具注為成

清身細每年正月清祈禱清托

卷教本以代傳献上仕清無清之

清北卷教八清而月代色... 心身

一 清代之清終日之清礼本任的知

少御於清白書院物清礼中上於

柳清乃西暇州殿又拜任仕心身

不紙... 書上心身

一 苗寺長老織中絶仕心身

常憲院極清代香名長老織... 後

身願清淨容之上支傳 奏流

願上

勅許... 成下論旨願載... 末内

作付... 然... 享保十八五年

禁裏様

东宮極當社所宗信... 後心先臣

南谷... 系衣

勅許... 成下... 末... 九代... 線錦

仕心身

一 有德院棟清代享保十六五年社

以本比堂迎廊唐門末社末大... 殿

修護... 仕... 由... 金六百... 枚... 信

作付... 同三百... 枚... 平... 常... 修

護... 仕... 旨... 作... 渡... 身... 金... 三枚

為遷... 文料... 下... 意... 心身

一 享保十九五年古佛殿大破... 身清

和源家、所大石方、勅化也

仁丹布、勅化金、上、以、似、殿、修、造、信、口、  
事

一 博信院様所代寶曆七五年尚社八  
百年所忌、云、為、作、付、舞、樂、庭、儀、  
大、曼、茶、屋、信、修、行、仕、口、事

一 後明院様所代安永九子年尚社  
法堂并神室、小、道具、亦、所、修、漫、云、為

作、付、所、金、三、百、兩、云、下、云、清、和、源、姓、  
大、若、万、石、以、上、以、下、凡、所、助、力、勅、化、并、  
武、國、巡、行、勅、化、云、為

一 當寺之儀、方、丈、云、  
作、付、以、口、事

所、代、之、所、牌、及、中、願、實、於、之、口、口、口、  
並、仕、口、中、口、口、口、  
檢、査、口、口、口、口、口、口、口、

心、任、持、長、老、殿、之、道、來、以、上、古、之、源、家、  
所、代、之、表、也、則、古、證、文、教、通、至、今、  
現、在、仕、口、以、上

已  
二月

京、六、條、五、社  
遍、照、心、院

寛政九丁巳年二月十七日増上寺後去道  
事

後人死

寛靈  
宣契

以、手、紙、被、許、見、以、由、去、月、行、口、口、文、字、  
席、上、席、口、口、口、口、口、口、口、口、口、





寛政八辰年七月十八日出

以上書心館印上

永平寺正法眼藏全於九拾六卷之宗  
 祖道元禪作源卷之宗訓此其  
 一宗僧侶其書肆之族世之流傳  
 單紙本厚紙本公均取收仕中書  
 宗祖之宗訓之教之復之存卷之宗  
 法刺書肆後之宗板本其宗為志信  
 作之單本永平寺堂用之其宗  
 法力之宗字之用之信之其宗觸達  
 以如後之永平寺一宗之宗之宗  
 由享保年中

公儀由達之上用板信止之其觸達

蓋少其其後亦心滑遠之者乃有  
 以月夜乘觸之其宗於法山其宗  
 以永平寺堂用之其宗之宗字下仕  
 之如務手之其宗其宗之宗今之諸  
 本之法之信字之用仕之其宗時世  
 間之流傳之法本之一皆也其宗  
 本山堂用之真本之其宗之宗字  
 文字之間遠亦存多其宗之宗字  
 堂用之真本之其宗之宗字  
 以均其宗之其宗之宗字  
 滅裂仕之其宗之宗字  
 以均其宗之其宗之宗字  
 為其宗之其宗之宗字  
 藏之本其宗之其宗之宗字  
 其宗今其宗之其宗之宗字

卷六の長障、後にもあり、少る者分る  
是より通矢張寫本、紙面残り九拾  
卷右永平寺宝印表本、信と致印  
別則永平寺致藏板紙書肆本、  
交ら賣買等、此仕且又一家、信侶  
より、と、谷昂、洋清、不、先、只、馬  
志信、作、再、三、惡、信、一、單、は、為、信、  
度、紙、定、仕、並、の、り、先、年、宗、祖、  
家、訓、等、致、多、護、一、好、志、と、い、解、  
意、了、通、之、も、お、あ、り、下、り、と、信、永  
平、寺、拙、寺、の、示、清、あ、り、い、の、一、月  
通、評、紙、の、先、年、宗、板、信、少、一、美  
古、本、山、の、其、末、一、お、わ、く、様、宗、板、  
美、平、寺、の、与、り、り、如、く、好、志、好、度、寺、  
餘、後、話、合、と、い、お、本、山、宗、板、一、後、去

お一家、一、分、あり、り、あ、い、紙、文、の、障、  
之、五、卷、紙、除、の、と、介、く、り、有、障、也  
少、残、り、永、平、寺、尔、謗、一、多、お、信、  
宗、板、仕、度、寺、好、い、武、列、多、摩、郡  
神、井、村、心、源、院、元、察、極、達、同、後、量、一、  
而、僧、と、し、正、法、眼、藏、宗、板、一、後、永、平、寺、  
圓、三、箇、寺、の、年、來、願、如、く、紙、の、と、い、る  
宗、板、一、件、一、始、末、の、右、而、信、の、り、一、付  
度、寺、の、の、前、面、寺、一、上、の、通、寺、餘、後、伏  
合、り、の、宗、板、仕、度、の、後、の、信、一、上、の、付  
草、右、の、信、一、首、子、速、古、聞、濟、の、成、下  
の、り、一、形、一、宗、祖、一、家、訓、子、載、石、巧、流  
通、信、後、の、拙、寺、の、勿、論、高、祖、見、孫  
一、而、一、月、宗、板、合、二、寺、の、の、上

辰七月

圓 三箇寺



考以得とし高貴之方五度志流く  
長少用ひしよりい伝ふ二ツ致傳來の如  
思え仕ひ右左私一正し是れ伝ふ如  
弓行又京師より來りて早速書  
礼記上よりいひし

右田殿家

二月六日

徳田多摩

隠岐國後周吉郡總社大明神神  
号并司職信伎國造家系(中來  
實礼未傳來)後右尋ひて總社大明  
神七人皇十六代 應神天皇之神宇  
移<sup>也</sup>社社櫻(靈神)右内殿三座

祭り申敷き

大己命 玉若命

左方

系蓋命 梶原命

右

酢原命 車代命

總六神

三座延壽式

神名記出し不き玉若酢神社  
國造号傳來(後右高車)國造本記  
隠岐國造名

近島豊明(宇觀松彦伊呂止命)在  
孫十族命始賜國造と出し職号傳  
來(右攝)出れ其後感掌(変更)改仕  
以貞治七年 今年改元多し 以教書  
与中傳不持いし(古記)

隠岐國總國造職之事

藤原朝長義外

右八人被補任彼職也臣兼知勿違  
失地下依作執達也件

貞治七年卯月十五日



史中少以信、吉田家をも相糾ひ、又  
別紙に包りて飛出

口上之云

一 汲波國造、依清尋、甘私之語統  
左ノ上ノ

一 國造家柄、依志國史、古記者、恒  
性、古神職連綿正統、如節ノ尋  
常、社部ノは柳相遠方、以高直、遠  
後天明六年、高家執、奉之、漢、後下  
臨波、臣、依、信、在、系、中、日、人、結、為、  
於、秘、為、中、遠

天祚寬政二、四年、舊、司、殿、下、信、出、自、命  
苗、家、故、二、位、殿、ノ、  
既、治、ノ、終、ノ、後、持、事、  
其、遠、分、又、子、進、持、事、仕、二、位、殿  
殿、下、少、持、事、上

宮中、依、為、苗、能、清、遷、幸、清、用、上、遠  
翌、亥、年、唐、櫃、納、以、下、之、法、下、宣、賢、令  
一、枚、以、下、以、才、項、款、以、由、取、知、仕、以、右、之、  
清、用、之、儀、以、在、以、之、系、於、上、之、記、録  
取、測、具、書、以、の、中、上、以、以、上

吉田殿家

正月十日

吉田玄庫

口上之云

一 汲波國造、依、清、尋、之、終、之、後、苗、上、月、中  
清、尋、之、甘、私、之、語、依、不、生、書、以、在、之  
於、又、系、於、取、合、以、之、甘、私、之、語、以、取、  
尸、越、以、之、五、選、依、名、以、象、之、命、四、事、中、記、  
書、記、者、之、取、路、之、終、之、知、名、日、本、紀、中、  
孝、德、天、皇、之、卷、同、八

天武天皇之卷審書記有之古之  
重器相遠之今亦在之今回人秘居之重  
達

天德寬政二戌年春日敏下依法命  
南家少少政推考

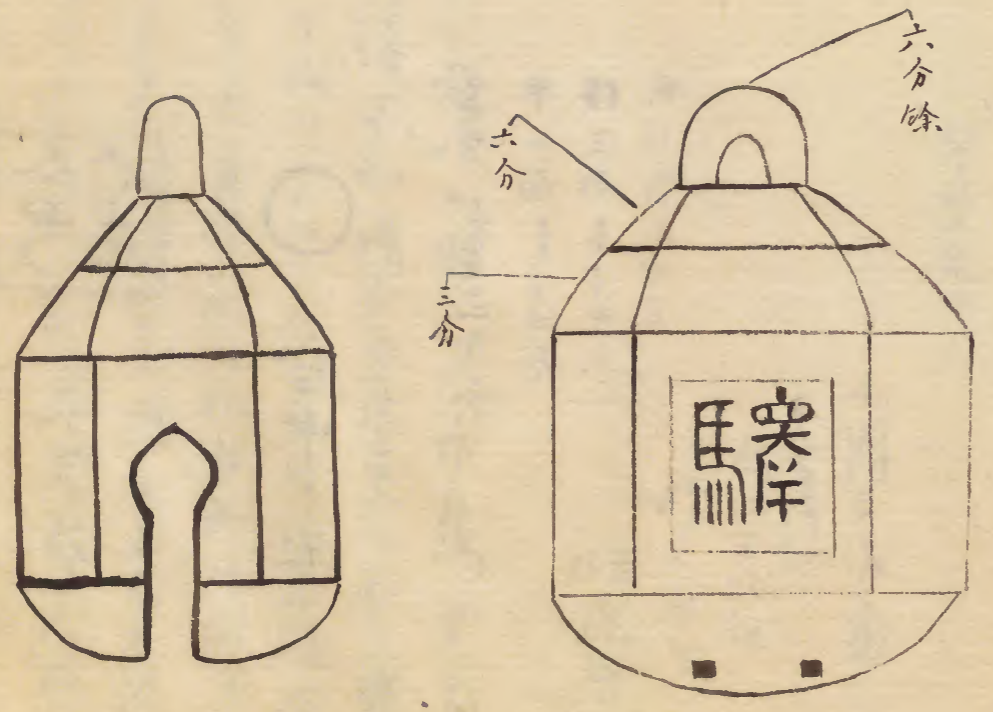
林不重涉用之達時是去年唐槐之細  
此器是唐黃金一枚以不似此不似先  
達之私書上以是之布和之敏三言法  
右之版之十上今版之乘以付以物  
以在也

吉田敬家

二月十一日

吉田玄庫

驛鈴之圖



鈴

裏面ノ字



會中ノ玉

高サ 三寸二分余

平一面 三寸四分

横三面 三寸九分

掛月 百九十日

例書

松平右亮殿

小田切七作左衛門

小菅清組

南越三親組

榎之丞

飯尾高次郎

右ノ者係此贈六天布在島月由付  
行情不知誤多持来以不ハ空也ハ  
知ニ候ハ存以在出而取礼也紋價入  
致意以目立給共以在取礼以候事不  
取ノ金を分持也百文渡是又ハ取礼也  
未ハ付事ニ候ニ至リ候殿方ハ取礼也  
実者此物ハ中流也部中取以ハ



挿押迄之節に丁丁之紙を余の  
手紙海峽を頼りて送るに  
渡りて其の紙を既して  
俵に在りて未だも  
元分人の手紙に  
寛政又五年十月  
差込五十日押込中付之

牧野大淵とて

西九

奥坊之紙以支記

庚六天

十二部

右之者倭西九土產之  
出而の紙此紙之  
手紙に在りて未だも  
元分人の手紙に  
寛政又五年十月  
差込五十日押込中付之

頼りて在りて未だも  
元分人の手紙に  
寛政又五年十月  
差込五十日押込中付之

清梵者免之例

天明又己年八月壬辰改元、改元不知 河野儀中、  
一、河野山号保 能達之御付吟味一件、河

河野山

河野山号保

蓮如院

天永

右蓮如院天永後去、西平末寺能達  
之御付預出吟味於其時、吟味、  
中渡清下、若出吟味、  
川續重立相頼以、  
吟味、  
之御付預出吟味、  
中渡清下、若出吟味、  
川續重立相頼以、  
吟味、  
之御付預出吟味、  
中渡清下、若出吟味、  
川續重立相頼以、  
吟味、

不、  
之御付預出吟味、  
中渡清下、若出吟味、  
川續重立相頼以、  
吟味、  
之御付預出吟味、  
中渡清下、若出吟味、  
川續重立相頼以、  
吟味、  
之御付預出吟味、  
中渡清下、若出吟味、  
川續重立相頼以、  
吟味、

此外

右、  
之御付預出吟味、  
中渡清下、若出吟味、  
川續重立相頼以、  
吟味、  
之御付預出吟味、  
中渡清下、若出吟味、  
川續重立相頼以、  
吟味、  
之御付預出吟味、  
中渡清下、若出吟味、  
川續重立相頼以、  
吟味、



我修政一以之寺社身以之退院  
尸竹束以之文時より八和幸く尸後  
石相用品不互以之遊院身任之  
仕以

子正月用表

丹波と坂

口正月用表

采女正坂

寛政四子年十一月紅葉山

御宮の酒井雅樂以田原清孫と敏備清  
綱義修後之儀雅東以後孫と

御宮御坊主と掛合後因坊坂村  
多丹波と坂と中屋進達口年十二月

在修後由東(中屋丹波と坂)進達

号八石と斗

全法寺

在安二丑年

清和元年(丑)下二丑以

安二丑年(丑)拾六年(丑)元祿十七  
甲年

清和元年(丑)不更(丑)中村没人(丑)  
和(丑)及出入地押(丑)八石九斗奈  
者(丑)不更(丑)中全法寺(丑)分難(丑)五部(丑)裁(丑)解

方々地ノ上ハ公在り斗を差引之斗  
修費ニ 沖永年ノお見合

高野金法寺進退い事ノ故  
田知左ノ色

一字花下相

以改及別五畝女口歩

一字寺前相

以改及別七畝取歩

右吉の曆二申年ノ相方名ノ可性  
全法寺名ノ更ノ相ニはお満ノ上ハ

年貢地ニ然給お見合

一字貝井戸田中田八畝拾口歩

以改及別八畝女歩 石壹

以言七斗六升六合六ツハツハト

一切開田六枚

以改及別七畝サ七歩 石壹  
以言寺石在り合 二八ト

一切開相拾六枚

以改及別七畝取歩 石壹  
以言二石二斗七升 二ツ七ト

但泉井村相ノ不整なれ分  
以言津ノ石在り合

一字松合相壹枚

以及別三畝女歩 石壹  
以言寺前は外八合六ツ 石壹

但右ノ

一口而相壹枚

以改及別廿七歩

以言口糸合

但右ノ



上田十又中田十と下田十一根と中石盛  
在例に所産の石在る處に高しき石  
取記産石

上田

高石

以支別六拾六所六反六畝八歩 石盛十二

以俸教拾九万九千九百九拾八坪 但支別六  
作

口

高石

以支別六百六拾六所六反六畝八歩 石盛四

以俸教百九拾九万九千九百八拾九坪

中田

高石

以支別七拾六所九反六畝九歩 石盛十二

以俸教拾七万七千七百九拾九坪

口

高石

以支別七百六拾六所六反六畝八歩 石盛四

以俸教拾万七千六百九拾九坪

下田

高石

以支別九拾六所九反六畝七歩 石盛十一

以俸教拾七万七千七百七拾七坪

口

高石

以支別九百九拾九畝八歩 石盛四

以俸教拾万七千七百七拾七坪

石盛他十坪、此産石、一ヶ村田畑打込

上中下平均仕捨町百石中村方八石  
之村方此社以之清以領分在東村不  
凡捨町百石之當了相急之村方此社以  
左之領尸山以以上

十二月十九日

大石猪十石

安永九子年

一豊前も出子六月廿一日御中取分未依後取

口ス

尸渡

東殿山目代

田村修十進

長谷川利一郎支配長崎元悦  
長島二養方之官方之町醫太田元達  
中ノ山得之家業有之者之捨別其方領  
此目見之者之出之者之町醫師中  
領之者之有解養子之能相取外有之尺

子五月

再解養子奉了之

馬百石

東殿山目代

田村修十進

解養子

助井修十進

助井民部

此御用子無事之件使申渡  
領之此解養子使申渡明如七箇





師 獨書 自書後

白徳二辰年十月

師 勢送 〓 師 無 警 衣 冠 卷 無 納 卷  
〓 太 刀 佩 槍 盾 子 持 白 豆 袋 〓 〓 〓  
〓 〓 〓

日 右 申 年 五 〓

師 勢 送 〓 師 無 警 衣 冠 卷 無 納  
卷 〓 太 刀 佩 槍 盾 子 持 〓 〓 〓

覽 延 四 志 年 八 月

師 勢 送 〓 師 無 警 衣 冠 卷 無 納 卷  
〓 太 刀 佩 槍 盾 子 持 〓 〓 〓

覽 延 十 一 乙 年 八 月

師 勢 送 〓 師 無 警 衣 冠 卷 無 納 卷  
〓 太 刀 佩 槍 盾 子 持 〓 〓 〓

天 明 乙 午 年 九 月

師 勢 送 〓 師 無 警 衣 冠 卷 無 納 卷  
〓 太 刀 佩 槍 盾 子 持 〓 〓 〓

袖 衫 シウ  
サシ  
ソテ  
カマヒラ

如此号へ可申哉

襲 衣 シウ  
ヌ  
カサネ  
フコ  
シタカサネ

司

姓 ザ

トリヒシク  
クシク











寛政八辰年七月三刻大徳寺石

石

一 善徳院地脚石

石造燈籠

石造

石造花籠

石造

石造机

石造

石造

石造

石

天交五酉申年三刻起石

一 大徳寺地脚石

石造燈籠

石造

石造花籠

石造

石造机

石造

石造

石造

石

天交十八巳酉年三刻起石

一 花嶽院地脚石

石造燈籠

石造

石造花籠

石造

石造

石造

石造机

石

天交十七戊申年三刻起石

石

石造水鉢

石造

是石造起石年曆相付

因時起石相易悉皆

大破石造修後

石造起石年曆書面

石



長  
七月

三列

大徳寺

花嶽院地

城前至西郷陣口

女別

信康公

元友十七年

三代目

奉  
知

花嶽院

寺

辰

三列

大徳寺

善徳院地

信忠公

大樹寺地

信康公

東山

出相

山王別當

元友

大徳寺

寶曆十二年

大田

三列

哭

安永八年

大田尚徳

寛政元年

因 五丑年

自分

天明元年丑年閏五月廿一日  
井上何内守手留之也

一葉ノ下ノ葉兩條出葉有之是為  
格也使時之格之取揚之令之格之  
是之格之見合是之令之格之

是之格之令之是之令之格之令之  
是之格之令之是之令之格之令之  
是之格之令之是之令之格之令之  
是之格之令之是之令之格之令之  
是之格之令之是之令之格之令之  
是之格之令之是之令之格之令之

但其格之令之是之令之格之令之  
是之格之令之是之令之格之令之

寛政九年乙未九月廿八日

是

一 此上地蔵堂（徳田） 山王雷神（徳田） 社地（徳田） 仰

一 此上地蔵堂（徳田） 山王雷神（徳田） 社地（徳田） 仰

一 此上地蔵堂（徳田） 山王雷神（徳田） 社地（徳田） 仰

一 此上地蔵堂（徳田） 山王雷神（徳田） 社地（徳田） 仰

此上地蔵堂

及地蔵堂（徳田） 山王雷神（徳田） 社地（徳田） 仰  
根津社地（徳田） 仰  
今山每年暮春（徳田） 社地（徳田） 仰

己九月

甲辰吉京

日十月甲申

是

一 此上地蔵堂（徳田） 山王雷神（徳田） 社地（徳田） 仰

一 此上地蔵堂（徳田） 山王雷神（徳田） 社地（徳田） 仰





幼く見置根命二十三世孫神代神  
護景雲三年中皇孫大の一字と加給ひ  
大中臣と改めしは此の見置根命千世  
孫日長尊神道大業大占卜事の恩  
賜として平野社跡勢を大中臣と改め  
卜部と後姓を賜ひしは此卜部と  
姓して見置根命二十九世孫弟近代  
永延元年十ヶ月吉日行幸同年大  
殿冠袴の字の傳と吉田家代々此家  
の跡字は可用と云 一條院長年を賜ひ  
しは此院長字の字を賜ひしは  
弟の字を月ゆひしは連綿して當時  
今より之御傳と云けしは暫く日長尊の  
長の家と目してあり致代神代伯身任姓  
者石川家父長家お神代伯假任の

ありしは伯神代道に替りしは  
曾而是ありし當處ハ神代天見置根命  
尚侍位と位長連と多之神風血脉連綿  
して神代道嫡子相承吾國道と基本  
身家系ありしはありし 此代  
天皇と侍傳ありしは侍傳と御嫡  
此一代一會と大系大掌會年一統掌  
會等其年恒例臨時  
朝廷より行ひ給ひしは大小の神と御  
より當處と御行しありしはありしは  
御代道 輪も軒敷と諸社劫  
請官位賜 養位家進神代道管領  
長上當處一統と職業と傳りしは他家  
出給ひしは神代道の家とありしは  
一家御傳とありしは數代と内侍傳の地宮柱

古敷立神代以来古俗唯一宗原神  
道神羅多境寶重神寶占安重  
備神物持の靈場あり故此際おひ  
十八神道宗原行より水の祭の二壇行  
を行ひ

寶作延長快運長久有下恭平宮  
民豊豊の抽起の年中百餘百の所  
事とと東御出の元為御後飲と  
物事此際大徳為修理料

一 國東より寛文十八年銀中拾壹日寶永  
五年銀中拾壹日より元 齋場所

中の神聖名を造立奉如八角之宮  
當家神心靈場より廻廊より延長  
敷御所徳園徳盛三千八百二拾二  
神とを安置一徳古

林尾進より由神祇宮八神後急仁  
年中札荒廢よりを當家先祖御  
當山遷奉如天正十八年依  
初從神後造立徳

勢行七知のり如木木も慶長十二年  
伊勢奉幣由奉幣奉者若田神祇  
可勢行

東路宮路有出城のあり  
仰出より伊勢奉幣例奉幣  
由奉幣上社奉幣 初使為遠

公次勢行より如の於今齋場所神祇  
宮より 初使為遠あり

初使為遠棚式既より公智  
齋場あり右齋場所宮殿被始

為依









化國之上如光親吉乃有進退之由上乃  
有 神皇正統記  
敬有院殿覺文五年諸國之神殿等  
吉田所容之精神祇道可相与之  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記  
也

一有德院殿神道而入奉幣以神好  
大等神相傳神祇格別神信作也  
也 凡山与事係年中日之儀

神内令大自下年一神鎮札在正元  
也勿德 利金之始好也

一覺文八年三月 神皇正統記  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記

八組本錦之儀上元所事一節而仰有  
以也 何事也

神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記

一覺文五年 神皇正統記 神皇正統記  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記

神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記

起稿文前書

一今御之 神皇正統記 神皇正統記  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記  
神皇正統記 神皇正統記 神皇正統記

此依古是原正路也此可也

一神道了理之字古田家系由之文  
修亮新能之修德之也

附了理考修德之變之修德之  
高人名當其也一初修德之也  
教

一古田侍從五年之官連刺中前

合古田侍從也此也此古田侍從也  
相守諸之相能之也古田侍從也  
多古田侍從也古田侍從也

古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也

古田侍從也古田侍從也

天神地祇修之也神祇官高場古田  
社之也古田侍從也

寛文五年十二月廿九日 給麻將監  
大首主水  
給麻采女  
給麻古京

古田侍從也  
收野侍從也

古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也  
古田侍從也古田侍從也





因古言及越

德人完

宣  
美

此手紙致科見山然  
 知恩信宮師多向  
 此言此等一信則書自  
 中一然受年  
 此言此等一信則書自  
 四申年此歸京  
 此言此等一信則書自  
 寶曆十二志年  
 此言此等一信則書自  
 此山因傳崇院師  
 因年此  
 知恩信宮師多向

山以

十月廿二日

覺政九丁巳年十月十日  
 長越問合  
 長越問合

山以

一本多院極 寶永元甲申年七月廿一日

一物致日信極 天和元年酉年十月廿一日

一夢月極極 文德十二年九月廿一日

文昭院極師

文昭院極師

文昭院極師

一 出 夢 地

寶永七庚寅年七月十四日

文昭院地即五君極白地高野山

一本元院地 寶永七庚寅年七月十四日

文昭院地即一郡地極白地高野山

極白地極白地 一郡地極白地高野山

地別別改地極白地極白地極白地

身之自奉 一 一 一 一 一

寶永九年十月

如梅 常泉寺

改地君 寶永進衛大政大臣家極白

文昭公為甲有參議時之養女也 寶永九年

七月廿二日平法名本 乘院夢傳川常泉寺

極白地極白地極白地極白地

十月

林大寺

豐後君母天壽院

文昭公為甲有參議時之長女也

天和元年八月十日

極白地極白地極白地極白地 極白地極白地極白地極白地

十月

林大寺

三

此山下三ノ宮地極白地極白地

十月

林大寺

豐後高野郡高野村

常泉寺

常泉寺



永祿十二年甲申秋因信長於駿河正  
城出末元山物雪城之御靈泉寺建  
立寺願之始也余亦附有之天正七年  
梅雪遊寺之日曾于代君民田家出相  
傳靈泉寺之物雪廟所即建六如  
先例亦附而上今亦余之也天正十八  
當年曾于代君常初水戶城出國  
曾有之慶長八年九月出遊寺也  
信長御靈院殿前常例奉養誓書  
居寺之相傳

信吉君 萬千代依母姓稱武田七郎母  
氏田吉華油川女男長雪院

神君五男 初領總別作倉後賜常例  
水戶慶長八年九月吉遊

信長御靈院奉水  
戶向山御靈院

所之通地者方書角之上之書除之  
書角之出也  
十月  
林大寺領

寛政十戊午年正月二日  
出

公儀 御目見付者

中野國守出書

長江源氏

森田伊兵衛

地本島守

石物者共御

高年總

高目見仕... 高年總... 相物... 高目見仕... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於...

高目見仕... 高年總... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於...

高目見仕... 高年總... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於...

高目見仕... 高年總... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於...

高目見仕... 高年總... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於...

高目見仕... 高年總... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於...

高目見仕... 高年總... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於...

高目見仕... 高年總... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於...

高目見仕... 高年總... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於... 高目見仕... 高年總... 奉... 於...

一 津幕言為津程後 津先中極若  
津身極身社津身以極 為  
之包養是津者一程之若上以

一 去辰年津年次  
津自見長口吾在馬表田仔在馬表初  
中以先極之包養是津者一程之若上以  
津奉以極之津年次

一 津自見仕以極之津年次  
名之津年次以極之若上以  
之家節之津年次

右者拙之先極之包  
津自見相初來以之表田仔在馬表初  
少

下野國之津年次

己  
十二月  
表田仔在馬  
長江表在馬

青社津奉以極  
津段人津流中

口十戌年事山月九日

慶長六年庚子分津 津陣

東照宮極小山城

名德院極中津宮

津陣而極之時之表田仔在馬表初  
者之身極之包養是津者一程之若上以  
上之若上之若上之人之若上之人

少石與列分津境自出葉內津陣  
津用万端知少極之津年次



守本尊天慶年中經基公光國  
 由任所(長)尚國(由)移其後永業  
 年中(以)為先祖(德)尚源賴義朝臣  
 孫倉(由)移賴朝(公)孫倉(官)領宗  
 教之長祿年中太田道真武列川  
 城中(之)移文明八年太田道灌(口)  
 戶(由)城內(口)移(口)後  
 於規(天)正年中(國)東  
 寺(入)國(以)來(尚)本(寺)法(住)  
 寺(崇)教(寺)長(五)年(七)月(國)ヶ(京)  
 所(陣)之(蒞)法(新)禱(慈)昭(大)師(於)尚  
 藥(作)寶(希)藥(作)十(二)神(一)秘(法)等  
 軍(神)摩(利)支(天)之(秘)法(寺)法(住)所  
 陣(中)卷(救)寺(獻)上(其)後(恒)  
 東(照)宮(採)單(衣)三(教)領(法)

仍(付)世(外)法(用)之(具)教(多)法(寺)法(住)  
 同(九)年(平)河(公)發(河)卷(口)法(移)發  
 河(卷)上(野)廣(小)路(口)法(移)天(和)  
 三(年)尚(麻)布(口)法(智)地(口)法(住)面  
 弘(領)仕(口)法(住)寺  
 一(崇)源(院)樣(慶)長(年)中(尚)寺(宗)作(寺)  
 師(靈)爰(法)若(寺)法(住)  
 寺(懷)信  
 家(光)孫(法)誕生(寺)法(住)藥(作)堂(寺)  
 寺(流)  
 崇(源)院(樣)依(寺)願  
 台(德)院(樣)亦(法)建(立)法(住)  
 作(寺)法(住)法(住)十二(神)將(法)住  
 寺(法)附

慶長十乙巳年卯月吉日



天樹院様

由同所

一 嚴有院様

由同所

一 常憲院様

由同所

一 常憲院様

由同所

一 帶憲院様

由同所

一 伊基院様

由同所

一 壽長院様

由同所

一 若君院様

由同所

一 桂昌院様

由同所

一 文昭院様

由同所

一 文昭院様

由同所

一 伊基院様

由同所

一 若君院様

由同所

一 有章院様

由同所

一 有章院様

由同所

一 有章院様

由同所

一 位院様

由同所

一 月光院様

由同所

一 有章院様

由同所

一 有章院様

由同所

一 大綱言様

由同所

一 伊基院様

由同所

一 小次郎院様

由同所

一 小五郎院様

由同所

一 信院様

由同所

一 信院様

由同所

一 大綱言様

由同所

一 子代若君院様

由同所

一 伊基院様

由同所

一 伊基院様

由同所

後明院様御代

一 後明院様

由同所

御基様

由同所

大納言様

由同所

参拜始末様

由同所

當時

一 公方様

由同所

大納言様

由同所

御基様

由同所

敷之御様

由同所

御基様

由同所

後始末様

由同所

石之通正五九月歳嘗 浄新禱修所仕

浄礼致上仕来り上

但正月より浄莫茶十袋六月より雷除香

浄礼致上仕

麻布

七佛宗所列南

東福寺

年  
二月



寛政十戌年三月廿九日

一當寺儀名永祿五壬戌年

東照神君様 伊与父 道幹様

為伊菩提殿堂伊建立之居様此伊

伊此則 廣忠様

伊名宗之依 欽命 廣忠

二字伊寺号之 伊為此 伊附

道幹様 尊牌伊表書

東照神君様伊車駕之為 此連

此大切之寶庫之納伊護仕來此伊

建之之居名於桑谷村五拾貫之此

伊步附之為 此伊判物成之為

下在之越之此其後度之兵火

各賦本依狼藉什物象跡亡失仕

以右神從

東照神君様存之為 殿下此由緒

此事ハ 廣忠様此妻女高國大給儀

之松平源次郎宗正之息女於久成

此天文十年七年春於久成此

伊男子伊出生此之此此此

水野家ハ 奥様之為入口右於久成

此之為伊母子密之國傍之伊城之岩

津之退給之其後桑谷村之伊成

伊家此伊當之為 此伊母子伊

移之此則桑谷村之此六之伊桑

此此之於久成之此之桑地之桑

谷領之給之母子元桑谷村之潛居之

此之同十一壬寅年十二月於久成於桑

谷村之男子之出生此此之此之

日同程日同様（山合之也）

東照神君様 御誕生と同年同月

御出生在忌憚り久し出生（内山系

と清定頼朝と山名附家此日同十八

巳酉年三月六日 廣忠云様此日此

為在依（於久殿も守貞節山利發

成清成名妙琳尼云と号入于時

勤六勾大果頼朝及八果之勤六

勾後政名して松平右京進忠政

と山名里霜少少之永祿四年酉年

其酒井雅樂助政家勾

神君様象 為命西尾（城と

政（時加勢と下給と象 仰雅示

助如謝して云上云

道幹梅の素谷村と給と耕し

領して世人に不交誓居とる人あり

其名に松平右京進忠政と云

君未知古の長と故あり忠政出生

幼雅（時）能き存知今に至

尚怒之（此）世人に清加勢

人殺（此）古加勢（此）能き

神君様早速清許容は為

抑忠政（此）戦を控を騎（此）加勢

樂助（此）加勢（此）為（此）甘味攻清務

利介（此）西尾落城（此）同五壬戌年

神君様西（郡）清出馬（此）付素谷村

（此）為（此）入音象（此）台命忠政（此）母子

神君様（此）御成事侍請（此）居（此）初

忠政（此）宅（此）清許（此）為（此）抑妙琳（此）云

無忠政（此）清照命（此）下（此）給（此）人



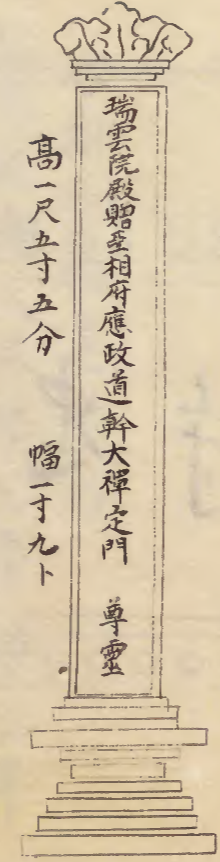
廣文政勝後、時故方、高村代、  
 一四頃地、上知、下成、山、村、在、從、  
 淨光祖、高寺、口、淨、寺、附、成、下、以、三、在、或、  
 斗、口、鉢、一、淨、除、地、外、淨、佛、修、料、  
 不、斗、三、鉢、今、名、先、經、一、也、赤、坂、淨、後、  
 不、口、淨、淨、代、一、寺、納、仕、淨、尊、屏、口、十、  
 淨、信、養、山、

右淨由緒書、方、信、書、遠、無、少、姓、口

桑名村

廣忠寺什思寫

道幹公御位牌並御裏書寫



高一尺五寸五分 幅一寸九分

東照宮御裏書寫

應政 禪定門  
 道幹大 禪定門  
 大夫殿 禪定門  
 園崎殿 禪定門

大夫殿ト遊シハ  
 廣忠公御裏書  
 右京交忠政殿  
 一ノリ 禪新總政  
 ノ弟也

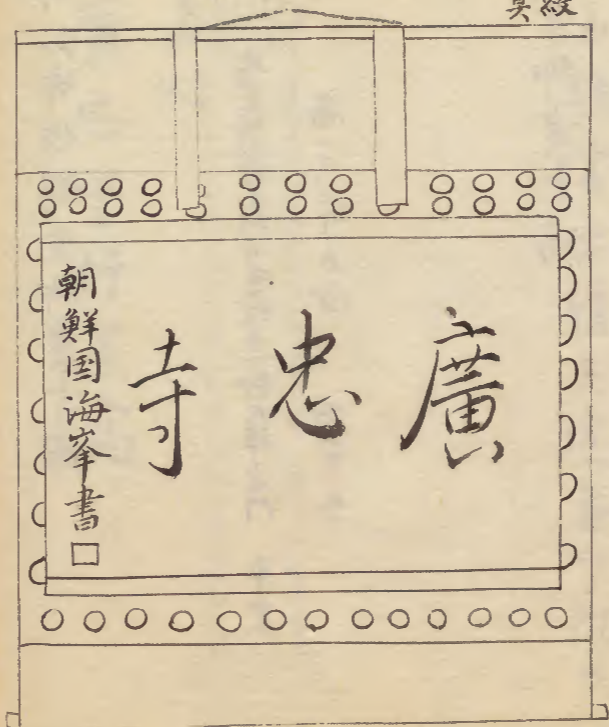
如此  
 御位牌、臺、ノ、ウ、ラ  
 ニ、ロ、リ  
 臺、長、三、寸、二、分

御尊牌之袋裏書之寫

寶永五子年八月山僧達于關府  
將權現公御真筆御位牌備  
文照院殿御照覽御感不淺依藏  
此囊及秘箱賜焉後住僧如護  
眼睛莫失墜焉現住英全叟誌

袋ハ織物ニテ上ニ御紋白糸ヲアリ

葵御紋  
切表具



朱印之文篆字ヲ  
朝鮮金時璞香之六字

右掛物箱裏書寫

文照院殿御代正徳元辛卯之年  
十一月十七日於御前台命朝鮮國  
之三使金時海峯書焉時御大老  
酒井雅樂頭命御勘定奉行表  
糴收篋御奇附也

幻住英全雄誌之

外

妙琳尼公御所持之品

釋迦一鉢

大黒天一鉢

茶釜一

常ノ茶釜ナリ其當時無注見云

客殿額

廣忠寺  
誓山書

酒井雅樂殿

自筆

形跡ナキ

定

三列額田部素名村

廣忠寺

一伐採山林竹木事

一穀生事

一鹽妨粮籍事

右條ノ條令信正年若於之遠  
犯事者下為曲事者也仍少件

享保十六年二月

寺ノ趣山札ノ本書之

上包ノ紙ニ高寺山札 杉年廣美ノ

廣忠寺御廟ハ石ノ五輪ノ塔

空風火水地ノ文ヲ己

苔ムシテアリ

寺ノ所為ノ所付送年ノ所也



植堂本堂、尊牌、上、平安、在、朝、墓、以、  
回、向、中、上、以、其、後、天、正、十、九、年、久、  
權、規、操、末、金、色、也、

佛、尊、野、之、在、為、成、以、前、之、美、伎、三、列、  
心、來、淨、存、妙、一、信、在、之、為、托、淨、尊、以、  
二、分、經、以、以、焉、

淨、目、見、之、作、分、俄、之、恒、末、金、清、光、寺、  
白、入、淨、大、樹、寺、殿、淨、廟、淨、系、詣、

上、淨、一、宿、之、為、托、無、美、源、志、之、恒、入、  
淨、感、者、淨、信、轉、五、拾、石、淨、杖、之、志、  
之、淨、步、附、於、托、以、其、後、

淨、代、之、操、淨、末、帝、頂、戴、仕、淨、寺、以、  
淨、礼、衣、獨、礼、序、也、淨、目、見、十、上、

右、淨、廟、之、依、者、佐、倉、代、之、淨、城、也、  
由、修、護、以、淨、以、事、右、有、表、門、裏、

下、馬、札、也、在、以、是、又、恒、城、之、由、修、護、以、能、  
以、事、一、右、之、類、也、以、在、以、以、上、

下、總、末、佐、倉

寬政十年年二月 清光寺

寬政十年年二月八日 奏越

役人 亮 宣 賢 秀 海

水、子、紙、波、抄、之、以、此、之、淨、去、之、不、  
後、者、之、唱、以、之、拙、所、為、美、系、款、中、山、  
傳、通、院、之、板、浪、之、知、之、後、傳、之、相、留、  
以、於、是、右、之、分、中、之、宗、門、之、親、在、也、







高山

清宮社職

右徳院採清代の曆元未年六月

久遠清院採清時以 仰付清神以由

之 事記書百名所取我法以書

於 清中坊以清後之 後子孫相續

仕以事

一言祖父

星野松道

右松道後清中坊以奉公取知事在

以 廣西曆二申年以 在 事記書百名所取我法以書

於 清中坊以清後之 後子孫相續

仕以事 仰付以名以別高外以候

方之 子孫後之 取知事在

一言祖父

田中松道

右松道後清別高取知事在

元禄十寅年以記高以武拾名 兼  
所取我法以書

清宮社仕法 仰付以名以別高外以候

方之 子孫後之 取知事在

右高仕以人後明曆二申年元禄十一

寅年以 以清記高以 在 事記書百名所取我法以書

於 清中坊以清後之 後子孫相續

仕以事 仰付以名以別高外以候

方之 子孫後之 取知事在

右高仕以人後明曆二申年元禄十一

清宮社職

星野松道

四月



少時、（時書時考）以上中書多也然乃  
以彼も之の宮車考之に如南年  
其て百年來余私に大代の初に之に  
涉れ孰上仕少時大尼の身分の考を  
下り此事類後仕少時恐之に自  
去度充出府孰上仕後身類上の如  
類の色は信付少時之今年又  
考家宛孰上仕少時傳言所居の  
法有く後考知し少時少時大氣傳  
少時荒場少時上

江別長命寺

慈光

四月

中緒書付宮

一長命寺宇山尼慈寶寺と云元朱  
漢并後考と娘と事不意量其後少時考  
少時孫組少時考の故之今年少時考又  
少時孫組少時考の故少時考又  
雖成事書物之因少時考の尼法即  
成西國札不親世考之二十二度考是  
少時考の別字之度目高少時考長  
命寺七堂伽藍を統政少時考親  
世考之の菴少時考入の初宇山慈寶  
則少時考の通夜少時考の如少時考親世考  
系少時考の考方事考の考止り七堂  
伽藍再建の考法考考尚又諸考  
修り考再七堂伽藍再建立成考仕の  
考考少時考考元朱  
権現考 在徳院考考中緒考考考考

不便之處 思古涉校坊方下之無所  
中傳束以

一 沛幸九次涉奥涉新禱造札守殿之儀  
涉廣教之少少改訂下之儀何如  
中子年八月之儀 涉中子年  
不知何年何月涉并泉中緒書  
右之 沛級之涉新改訂下之儀  
之後也

桂昌院極上之身大涉奥分法為  
信才以改之 中傳束以

一 大沛而極沛代貳拾今年以前壬子年日月  
中中緒涉身涉此以長中緒書  
本卷上以尚又以後涉身 中傳束以  
緒書對寫上卷上以

江長長全寺

寬延四年七月

光

寬政十成午年六月廿八日 稿上寺設之卷

乙二

一 檀林初稿二稿之案名 涉而山 沛甘香提  
而案名 香名 稿上 續之 涉身  
少

此後二稿之案名 中

山名川

傳通院

源名

光明寺

右臥園寺紫衣寺分紫衣寺の  
移轉は 作付の如二轉、紫衣の  
稱、知恩院増上寺、住持、  
此寺分住職は 住付の例又此  
寺、住持、  
方丈書上、  
住付の例、初轉、紫衣、

弘法

弘經寺

新田

大光院

仇連

常福寺

右初轉、紫衣の稱、  
光明寺、住持、  
住職は 住付の例又此寺

住持、  
何處も方丈書上、  
作付の例

一 香名檀林、  
月引、  
十七人の合、  
不化入札、  
住職は 住付の例

一 本山、  
京

京

全戒光明寺

口

知恩寺

口

清涼寺院

駿府

宝巻院

三別

大樹寺

江戸

極楽寺

江戸

天徳寺

一 大七寺寺之... 寺之... 住持... 一 寺玉印山...

三列

松慈寺

江戸

高月院

江戸

信光明寺

筑後

石道寺

越前

運心寺

右... 寺... 文字... 檀林... 上方... 仰... 例

三列

法然寺

右... 寺... 文字... 一文字...





少壯の如く瑞花院南多居雲靜候  
大山法と云ふ如く候所を  
二年壬午春の如く事起り清書  
其を清書若手抄候所と云ふ  
右一併綴候と云ふ如く再  
うと云ふ如く及至合  
願書清書不々法  
少不々法制不別  
若上一併平初  
御藏光と云ふ如く  
誓詞年王御用  
心向來未為遠  
板向高波而  
添徽金と云ふ  
仕候候所

瑞花寺

後者

五月

右同瑞花院の如く  
書面是の如く

聖德太子憲法

日本紀卷二十二推古天皇紀曰十二年夏  
四月丙寅朔戊辰皇太子親筆作憲  
法十七條

一曰以和為貴無忤為宗人比皆有黨  
亦少達者是以或不順君父不違于  
隣里然上和下睦諧於論事則

六十二

事理自通何事不成

二曰萬敬三寶三寶者佛法僧也則

四生之終歸萬國之極宗也何

世何人非貴是法人鮮有惡能

枉

教從之其不歸三寶何以直

三曰承認必謹君則天之臣則地之

天覆地載四時順行方氣得通地欲

覆天則致壞耳是以君言臣承上

行下廢故承認必慎不謹自敗

四曰群御百寮以禮為本其治民

之本要在乎禮上不禮而下非亦

下無禮以必有罪是以君臣有禮

位次不亂百姓有禮國家自治

五曰絕鄉黨棄棄欲明辨訶訟其百姓

之訟一日千事一日尚爾况乎累歲

須治訟者得利為常見賄聽便者

財之訟如石投水之者之訐似水投

石是以負民則不知所由臣道亦

於焉闕

六曰懲惡勸善古之良典是以無善人

善見惡必匡其諂詐者則為覆國家

之利器為絕人民鋒劍亦佞媚者對

上則好說下過逢下則誹謗上失其

如此人皆無忠於君無仁於民是

大亂之本也

七曰人各有任掌運不濫其賢哲任官

頌音則起奸者有官禍亂則繁世少

生知尅念作聖事無大少得久必治

時無急緩遇賢自寬因此國家永

久社稷勿危故古聖王為官以求人不求官

八曰群卿百寮早朝晏退公事靡鹽

終日難盡是以遲朝不逮于急早

退事不盡監字ノ語ナルニ詩經ニ王事靡盬トアリ

九曰信是義本每事有信其善惡成敗

要在于信君臣共信何事不成君臣

無信萬事悉敗

十曰絕念棄顯不怒人違人皆有心心各

有執彼是則我非我是則彼非我

必非聖彼必非愚共是凡夫耳是非

之理誰能可定相共賢愚如鑲无

端是以彼人雖聽還思我失我獨雖

得徒眾同與

十一曰明察功過賞罰必當日者賞不

在功罰不在罰執事群卿宜明賞罪

十二曰國司國造勿歛百姓國非二君民

無兩主率土兆民以王為主所仕官

司皆是王臣何敢與公賦歛百姓

十三曰諸仕官者同知職掌或病或使

有闕於事然得知之日和如曾識其

以非與聞勿妨防公務

十四曰群臣百寮無有嫉妬我既嫉人人

亦嫉我嫉妬之愚不知其極所以智

勝於已則不悅才優於已則嫉妬是

以五百之乃今遇賢千載以難得一聖

其不得賢聖何以治國

十五曰背私向公是臣之道矣凡夫人有私

必必有恨有憾必非同則以私妨公憾起

則違制害法故初章云上下和訢謂

其亦是情欤

十六日使民以時古之良典故冬月有間以  
可使民從春至秋農桑之節不可使  
民其不農何食良不桑何服

十七日夫事不可獨斷必與眾宜論少  
事是輕不可必眾唯遠論大事若  
疑有失故與眾相辨辭則得理

寬政五年五月

口上覽

云九八日

若君孫清以伊礼并献上物也

伊礼并禮正堂 賦以良

日光寺之孫 増生寺 金地院 櫻院

後持院之席次与伊礼寺之上京保

九辰年十一月九日

若君孫清以伊礼并献上物也 伊礼

後持院堂 賦以伊禮寺中上以上也

存之在席次之由而記 亦身中以上也

享保九年之細言其言 後持院後

惠海寺住持小住院新与也 賦

仁以親理院席与伊礼寺中上以上

後也云云以上京保九年之介令此

院觀理院後打院と席次は公儀より而紀  
木一向形見少中は信官仕の上より  
城仕の節ハ金地院護持院と席次  
交成下は後と年存の條ハ年次法札の  
五節白月並三日法札登 城下ハ節  
ハ勿論法能極見ハ 作甘登  
城仕の節ハ金地院護持院ハ席次  
交成下は後と年存の條ハ年次法札の  
法能の條ハ法能の條ハ法能の條ハ  
安交成下は後と年存の條ハ年次法札の  
法能の條ハ法能の條ハ法能の條ハ  
法能の條ハ法能の條ハ法能の條ハ

續持院役名

七月三日  
日 輪 院  
月 輪 院

寺社

佛車約布  
法役人中

元文二己年六月廿五日

若君孫法誕生并法役成ハ法能の條ハ

雨宮様字願凌雲院大僧正其介台家  
由一同一由 坊上并是又法能院ハ  
法能の條ハ法能の條ハ法能の條ハ  
本門寺同席其法能ハ觸以不  
一同法能ハ 法能の條ハ  
佛中入ハ節

金地院護持院 本門寺石三ノ年

一同於帝繼之侍間侍料理  
下直口紙

延享二丑年十二月廿五日

將軍 宣下侍從藏法徳徳徳  
侍中入侍

於楓之山間 金地院 護持院侍料理  
須臾仕録

天明七未年四月二日

將軍 宣下侍從藏法徳徳徳  
侍徳希

日光侍侍 侍上寺 金地院 護持院  
諸寺院一同 所自見

侍料理 宣下侍從藏法徳徳徳  
侍方志上野侍正方方方 金地院  
護持院

侍徳徳徳

日光侍門至様 侍徳徳徳

侍上寺 侍方志

金地院

護持院 侍方志

天台

諸寺院

侍方志

右通而記内侍方志  
成下度寺方志

護持院侍方志

七 十二月二日

日輪院  
月輪院

享保九年十一月七日

護國寺院家惠海護持院任職

享保十年三月六日

右惠海持僧三友象 作同月十五日  
任官法礼事上上

寛政元酉年三月四日

當護持院惠存當院任職

四月十六日任職法礼事上上同年四月十九日任友象 作同月十八日任友  
法礼事上上上

護持院改名

七月三日

日 輪 院  
月 輪 院

寛政十戌午年六月十八日香取一件吟  
味有之

享保十三年法裁許

香取大宮司中務大祿直堅物給  
社務及年輪吟味上上法除

一社家社傳法社並法證文之事

仰希即完取大宮司大祿直為連名  
之上法證文之取而皆以下為連名  
取与社家社中法信並立年香取大宮  
司大祿直為事並取法一人裁判石  
取一已し我之為人考減有八別事  
行不のて何し事

附



所奉印信料法流文亦也先規  
大官目録ノ尤大官目下爲上府事

一 修理料金取備之事

常大官目丹波新令百口後九箇官ノ  
助新金百拾兩支控稱臣新金支支  
武歩大祝新金支支地信以今宗  
致込納口官ノ如百拾兩ノ内百支ハ  
享保七年奉行新令ノ頼令注信  
于介ハ奉行不取相新金不呼ノ  
至ハ大官目丹波地信令ハ中務方  
按年賦高ノ如地信令ハ武按年賦  
一込納ノ控稱臣大祝是又能爲高  
形爲込納下付事

一 修理料令ノ事

社用高ノ常高ノ於大官目方新令  
出ノ大官目大福至官ノ如也一況口人  
立合下爲官封中

一 惣檢授角葉之兩職之事

從常大官目丹波代以常仕方不増作  
向後隨高例十七年一一度武按年  
一度支職之六系禮既以ノ以新母控八  
下替ノ十一月三日同女日兩甲ノ如ハ元  
來大官目祭日ノ惣檢授角葉之  
ノ祭日一年ノ上ノ支職ノ致既切  
事ノ如也(大官目下替之事)

附右支威知所也高ノ修理料ハ

入並高礼入月ノ一高ハ如常條大  
高目下下口人立人ノ中ノ高ノ  
高目下下高ノ形母控八ハ高令  
高ノ高ノ高ノ説料一高ノ事

一幣所祝社職之事

享保二年一幣所祝病水(後石  
坊)仕子以坊度吟味(上六高目大徳  
印)一幣所祝梓(五席)中職下(一  
付事)

附右實地(入並)能高比(後八  
寺)徳邊(下)付事

一社家立務吏知(事)

一社家立務吏知(事)右知行修理  
料(入並)鳥札(入)一(高)如(先)條立  
合(下)中(一)右(内)加(方)三(後)分(社  
家)控(以)後(並)職(設)為(相)知(以)事  
八(下)為(也)先(親)事

一之右和鳥(辭)徳後人之事

右和鳥人之限如大官目(中)和鳥人之

和増(以)候、今(得)以(古)未(之)通(後)後(人  
和)人(為)大(之)高(目)家(未)出(以)高(一)上(止  
了)

一不情(神)納物(事)

頃(未)不(情)以(系)向(後)全(浪)較(繁)後(者  
大)高(目)諸(通)具(真)高(八)大(後)高(目)是  
教(所)高(目)高(目)下(社)家(一)和(納)物(事  
右)今(般)吟(味)上(中)渡(條)上(高)度(可  
和)高(目)大(高)目(大)高(目)致(和)融(自)今  
以(後)神(事)高(目)候(未)不(依)何(事)是(相  
談)社(中)靜(謐)之(合)沙(決)也

享保十三戊申年十月

小 信 浩 清 列

古 丹 後 清 列

井 河 内 清 列

黒 豊 希 清 列

大正  
大正

寛政十戊午年七月四日渡取坂お後去、御書後

一 伏見船之御名之祿土 寅年大少船大  
 沖免有く、之好お上、享保七年  
 有徳院様思召、之一再無江、仰付以  
 一 伏見船再興江、始才、少中、小糸遠江、之  
 戸田山珠、之殿法、後、以、此書付、百、毎、坪、升  
 赤六、之、但、之、者、私、元、之、お、知、以、之、お、後  
 之、以、書、付、之、た、之、也

伏見船、之、後、先、年、も、有、く、付、之、以、此、書  
 小糸遠江、之、也

之、色、大、少、之、船、之、百、艘、お、願、以、此、度  
 以、珍、味、有、く、大、船、百、之、拾、艘、小、也、之、船  
 之、拾、艘、お、合、成、之、船  
 沖、免、江、藏、り、之、る、之、書、之、船、因、格、之、船  
 之、船、之、之、後、以、白、後、若、旅、人、之、討、取、候  
 如、仕、候、於、者、以、之、當、人、曲、事、之、付、付  
 之、色、船、之、高、停、止、以、糸、之、急、度  
 一、之、付、付、以、之、書、船、之、方、之、石、持、之、也、も  
 之、之、之、海、出、以、候、之、是、亦、之、之、付、付、以  
 以、之、也  
 九月  
 存、之、船、戸、田、山、珠、之、殿、以、此、書、付、之、候、後、以  
 之、之、方、以、御、目、を、之、之、船、之、之、お、知、子、之、  
 以、之、以、用、向、名、勿、漏、之、之、船、法、正、後  
 利、欲、之、名、お、拘、私、之、之、山、之、付、之、之、船





之成りたり付子

一 勝手不如言・と事も御覧・と事も  
不取止割取朱枝御未誅成もろく  
振・相國は後前・ 清條自も事  
儉約と用私・と事も之のさり旨  
此 仰出い何後海と急後下所取  
ちる

一分浪ふお懸・信をも減取出い  
少事後方・中相事少り旨お懸  
こそる

一 かしき所人御・と者なり人湯信  
方之方我事・と事・つはん付子  
右と通うはれ守い

八月

別紙・致事情 清條言ひ方書  
はれ多し熱中此

仰出い候・相事・と事・御事  
之候・御事・と事・御事  
此 仰出い候・と事・御事  
自然と御・と事・御事  
少後お達し候・と事・御事  
振・進中此 仰出い候・と事・御事  
中 継り候・と事・御事

右・と事・御事・と事・御事  
相達書付候

寛保二年八月

此 仰中達し候・と事・御事  
と事・御事・と事・御事

右の如く清浄未考之由申す所  
申す事之如く申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所

寛政十戊午年十月

京大佛焼香  
浄拜  
権現  
嚴有院

右清浄未考之由申す所  
申す事之如く申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所

大佛焼香  
神君

申す事之如く申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所  
申す所





一 東鑑之茂相見戸山通人皇八十二代  
後多非院以宇額胡卿神宮以建皇  
之也中丁傳來以建久日年十月武在右田  
庄知多矣寶前血流十並曰公草之兆  
也因事神馬麻毛源賴朝侵播磨重朝  
莊嚴社壇中少在

一 人皇九十一代依見院以戸山應仁壬辰  
九月相換与平朝臣貞時再與棟札  
也

一 人皇百代慈安乙年壬子年十二月小山  
到宮下野与藤原朝臣義政相義通  
信心之竹依程少政以孫義政之奇在  
青江吉次之太刀神能今御宮之御  
七珠宝物亦少在

相見

一 但先何年中之云礼毎月於神前  
天下清安今之清和禱也幣唯一神  
道三恒以子神樂僧馬樂別中乙又  
九霜月大神子概以仕以

一 能言云大明神名唯古神云在末云  
社傍云云在云云云云云云云云云云  
如竹信僧建立仕云云云云云云云云  
以在信僧云云云云云云云云云云  
神事云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云云云

由緒書 奉國下野家之敏左之巴大之字  
生國氏尾持物懺才三奉志未侍

大田五郎

私家之儀名天兒至根合分代  
嫡孫大職冠源子大信分私在早  
八代中與田原友秀源合字茂  
相續仕以

檢現極栗別系勝清陣之長武臣  
栗橋利根川清和信之弟清出馬也為松  
少別少和及半途清和細切中以前  
私分九代先祖大因源正少弼恭秀等  
者川中入苑入清和川而中右清  
右切之清益頂戴清左乃清馬若清  
故清時殿一重清故府驛之少純子清登  
相仕武藏之神職之清為 仰分等之  
有社以百石之 清判物好仕仕  
清代之 清兼平頂戴仕來以  
名德院極

大猷院極

大猷院極清代之清代替清目見以  
仰分執上物馬自若上末以出德新  
之宮之清故清時殿好仕仕之祖之  
代之清故清時殿以

大猷院極

大猷院極清目見以清之祖  
中上清後末廣少麻子以箱者執上仕  
日多九月清故清時殿平目編子清  
小神好仕仕以清之別位

大猷院極

大猷院極清目見以清之祖  
末廣少麻子以箱者執上仕  
清故清時殿二好仕仕以

清揚院極

清揚院極清目見以清之祖  
大因源正少弼元申年六月少極

尸上少後末廣少解子以看新上仕  
旧年六月清故身少單物清帷子故  
願仕以依之也先例

大猷院極少清故附少單物少帷子故以  
仕以

常憲院極少清故 清誕生少以先 祖

大内少作少正保三成年正月清故儀

尸上少後末廣少解子清箱者献上  
仕旧年夏清故附少單物少帷子故以

仕以依之也先例

大猷院極少清故儀末廣少解子看目  
清看献上仕以中 清故附少單物少帷子

故以仕以然中 清誕生清告例之儀  
清中儀少在也

大猷院極清故二清以清故 作身少後  
少解子少看献上仕清故附時暇附故以

故有院極清故少後儀之儀故少在仕  
恒

大猷院極清故附時暇故以仕以

故有院極清故極務之儀清以清故

作身少後少解子少看献上仕清故附  
時暇故以仕以

常憲院極清故替之儀少祖父或幼少

也室八甲申年八月日 清自見也

作身少月就仕旧月十日少暇少不

也少以別清故附時暇少廣蓋少寺社

以少以松平修理少教少後故以仕以

常憲院極清故代儀極少改元祿二年

八月戶田德也少教少改元元祖少也

仕来ハ流施ニ擬而為仕ハ所ハ所後ハ  
之後清波内所ニ在ク之親ニ在ク  
何付和家子ハ流施ニ為仕ハ

常憲院極清代玄祖父民部後

清能辨見法 何付元禄四未年二月言  
ヲ出テ清料理シテ也

常憲院極清代元禄六酉年四月玄祖父

民部後ニ在ク之男子女子ハ在ク戸田  
能也ト云ク其子孫上同年六月初言

祖父云幼少補父 然ク也其孫子也  
何付也

常憲院極清代元禄十五年二月言也

祖父民部後 清儀叙抄也

何付清能後清難考也也也  
常憲院極清代玄祖父民部後所也何

元禄十五年八月十八日河部花辨ト云ク

社清事也ト云ク之也

何付言祖父云幼少補後ト云ク遠家替  
也ト云ク其年未正月也

清日見但先例於物後也 何付  
也孰ト云ク清後也

何付也 何付也 何付也 何付也  
清日見但先例於物後也

文昭院極 清表君之也 正年正月六日

常憲院極

文昭院極清一也 清日見也 何付也  
大森二也 何付也 何付也 何付也

清日見也

文昭院極清也 何付也 何付也 何付也



今證文一通、惣五十三山

有德院極淨代嘉保八年五月祀其祖父  
其祖父傳後其男子之孫在府在方其私尊  
祖父式於儀奉其子願上之至其在實親親書  
其以味之上四月廿七日工井伊籠多殿高  
合之願一通其子之 行有以

有德院極淨 淨目尼之儀嘉保九辰年三月

廿九日黑田豊前守殿之儀流聖巳年三月

六日

有德院極淨一山、 淨目見仕为先河殿

上物二通其五十三山

有德院極淨代嘉保十六亥年三月信

國一回四月淨礼淨室免之 於出儀之

私取之儀先規之 每奉

淨目見一山其以中平二年免

若到之而淨年礼其知之極井上河内守殿  
其於淨只今以共通其也

有德院極淨代嘉保十七子年八月其祖父

其於少傳其初以淨信其一回之也其也其

領人別其以井上河内守殿之儀其以淨其也其

其私其死寺院下社家其也其也其也其也其

其信文其納之也其信其也其也其也其也其也其

其間其也其也其也其也其也其也其也其也其

其院其也其也其也其也其也其也其也其也其

其方其保六丑年十月廿七日伊籠多殿之儀

其通河内守殿之儀其信其也其信其也其也其

其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也

其文其信其也其也其也其也其也其也其也其

其列書其也其也其也其也其也其也其也其也其

其列帳其也其也其也其也其也其也其也其也其

書有以河内之殿古名為高西尾隱岐之殿也

若上之納也

有德院極清代二子但父去欲州博二病身二身  
元文四未年四月廿五日寺社在寺了物野鐵  
中寺殿上隱在願書其同日年五月六日  
大恩鐵前寺殿在河内今寺社之通隱在  
位有私身但父或於上寺五遠行鐵之殿  
其在中置元文五申年正月六日年終  
清目元先何極之通獨祀序之也

修身之殿上相古極大極多目若上中  
有德院極清代寬保二成年七月新曾  
祖父或欲之病死仕治或得極之私祖父集人

之有隱之修身五和申日年八月大水  
之寺社願之姓古夫合在借 芥川通法

之寺社願之姓古夫合在借 芥川通法

信信院極清代替 清目見延享二丑年

三月新之日 信行先規之通寺目

三清不極古若上十日月志之清眼之申也

而時結二和願仕寺社身了大恩鐵前寺殿  
在後之申也

信信院極清代 清信平之改延享三亥

年五月廿三日清用極新元極地多殿於

古河内合清中書并 家正改古五遠字

之古極清之殿中身紀伊之殿上若上之漸

之若上年卯十月三日紅之寺了小出極清之殿

之先年 神身平之申子之何古寺身身

保之度願之請上之極之神信之宮也

於寺子所古代官戶因古古古殿之長信以

裁仕也

信信院極清代年始治元寬延二巳年





正合寺河改古備中

寛政五五年五月二日私養江又大内集乃依  
病乃系乃之身憐大内或能也取智去後之  
強寺社乃乃乃強改法政乃乃乃乃乃乃乃  
日月十八日乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
信仕神後乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
神後乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

當神代寛政十年五月式部後病氣乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
子信在服乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

寛政十年十月  
大内云部判

寺社  
乃乃乃乃乃





家系代君極多牌 室水四丁亥年九月廿日

一智幻院殿露月涼華大童子 善依

右多牌淨厨子淨戸帳其善淨紋有

法納之 德淨殿 法心院極

實有為極 正德元年卯年正月廿日

德光院殿露月涼華大童子 善依

一 大五郎君極 室水七度亥年八月廿日

理家院殿月光秋華大童子

右多牌淨厨子淨戸帳其善淨紋有

法納之 德淨殿 蓮淨院極

右五 多牌淨厨子淨戸帳其善淨紋有

法心院極 蓮淨院極淨二心極淨法号

右多 多牌淨厨子淨戸帳其善淨紋有

一法心院殿中理妙觀日歸六娘

法二心極淨法号右之通、法心

一蓮淨院泥潔日華清信

右之通法心以上

寛政十年年正月

白金 吉祥院

